



— 福祉のまちづくりを目指して—
創立40周年記念誌



社会福祉法人
 九州キリスト教社会福祉事業団
 中津総合ケアセンター
いずみの園



上空から見た中津市大幡・永添地区（1962年頃）

ドン・ボスコ学園の新聖堂が完成した当時の写真。（写真中央）
北側に薦神社と三角池、手前南側の神戸製鋼所第6工場跡地周
辺に、1978年特別養護老人ホームいずみの園が開設される。
（社会福祉法人聖ヨゼフ寮提供）

1978年発足当時のいずみの園

KYUSHU CHRISTIAN SOCIAL WORK ASSOCIATION
IZUMI NO SONO SOCIAL WELFARE COMMUNITY

信 望 愛

愛は忍耐強い。

愛は情け深い。

ねたまない。

愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、

いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、

すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない。

それゆえ、信仰と、希望と、愛、

この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大いなるものは、

愛である。

コリントの信徒への手紙 I 13 .. 4より

CONTENTS

目次

巻頭言	3	3カ年戦略・新5か年プラン	27
祝辞	4	広報誌紹介	30
創立40周年に寄せて	11	事業紹介	35
組織概要	15	2018年度事業計画とこれから	47
組織図・役員名簿	16	学術論文発表・講義	54
概要	17	委員会活動	58
施設マップ	18	職員名簿	59
沿革 40年の歩み	21	編集後記	68

40thANNIVERSARY

いずみの園 基本方針

基本理念

神と人ともに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする。



Since1978

青いうずは地域の中の命のいずみを表し、
三つの点はいずみから湧き出る
信仰（緑）、希望（黄）、愛（赤）をもって
地域にお仕えするいずみの園を象徴しています。

サービスコンセプト

1. アメニティ (Amenity)

快適主義：快適なサービス、快適な環境、笑顔のサービス提供をおこなう。

2. ヒューマニティ (Humanity)

人間主義：心と体の自由を尊重、一人ひとりの個性を大切にしたサービスの提供をおこなう。

3. ローカリティ (Locality)

地域主義：地域と共に歩み、地域の福祉拠点としての役割を果たす。

施設長 富 永 健 司

2000年4月1日

いずみの園40周年を感謝して — 福祉のまちづくりを —

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 理事長
中津総合ケアセンター いずみの園 総合施設長

富 永 健 司



いずみの園は「キリスト教の愛と奉仕の精神」を基本理念として今日まで事業を進めてきましたが、本年創立40周年を迎えました。

これもひとえに、創立以来いずみの園を愛し、お声をかけてくださったご利用者、市民の皆さまのご支援と、いずみの園のために尽くしてこられた数百人の職員の皆さんの働きのおかげと心から感謝を申し上げます。因みに1978年（昭和53）特別養護老人ホームいずみの園がスタートした時は入居者50名、職員数は26名でした。現在、いずみの園職員数はスポット職員を含め382名、ご利用者は2,000名を超えようとしています。

【草創期】いずみの園の源流は創立から遡ること10年、大分・めぐみ保育園、中津・グレース保育園、犀川・のぞみ保育園の開設にあります。3人の若手の牧師がキリスト教の伝道に燃え、地域のニーズに応じて保育園を開設しました。この頃、高齢化社会が進む中で中津市の要請もあり、中津教会の多田一三牧師は老人ホーム建設を構想しました。種々の難関を乗り越えながら、教会の支援を受けて（社福）九州キリスト教社会福祉事業団を設立、1978年（昭53）特別養護老人ホームいずみの園が誕生しました。

【介護保険施行・施設改革3カ年戦略】1900年代後半、高齢化率は17%を超え「21世紀福祉ビジョン」や「新たな高齢者介護システムの構築」（1994）等が国から出され、2000年（平12）4月、介護保険が施行されました。高齢者サービスは措置（税金）時代から契約、経営の時代へ大転換となり民

間参入が始まりました。いずみの園では1997年「施設改革3カ年戦略」を立て①職員の意識改革②アメニティサービス③多機能化④サービスの質の確保⑤経営体質への転換などを目標に立て、選ばれるサービスの確立を図りました。

【在宅・地域密着型事業の展開】1997年（平9）訪問看護事業開始、2002年（平12）グループホーム、診療所、通所リハビリ新築開設。2007年（平19）学童保育事業開始、2010年（平22）小規模多機能居宅介護（定員25名）、かきぜグループホーム（定員18名）新築開設、2012年（平24）いずみの園中央サポートセンター事業、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（24時間ヘルパー）事業開始、施設福祉から在宅福祉への事業展開を進め地域密着と経営基盤の強化を図りました。事業収入は15億円に達しました。

【中津総合ケアセンターいずみの園構想】この頃になると高齢化率は25%を超え超高齢社会に突入、国は高齢者が住み慣れた地域で最後まで暮らせる「地域包括ケアシステム」を打ち出しました。いずみの園は2012（～16）年「いずみの園新5か年プラン」を策定、地域包括ケアシステムの推進、24時間在宅サービスの充実、障がい事業の開発と福祉の総合化を図りました。介護、障がい、児童、生活困窮者といった分野の垣根を越えた中津総合ケアセンターいずみの園がスタートしました。これからは地域、行政、経済界、医療と連携し、誰もが安心して住める中津、福祉のまちづくりを目指していきます。

地域でNo.1の誇りをもって

参議院議員（総理補佐官）

衛 藤 晟 一



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園様が創立40周年を迎えましたことに心よりお慶び申し上げます。

過ぎ去りし40年の中で様々なご労苦があったことと思われまふ。キリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念に『信仰』と『希望』と『愛』を持って地域にお仕えしてきた結果であると思ひますが、永きに渡り施設を支えてこられた関係者皆様方のご努力に深甚なる敬意を表する次第です。

貴事業団が高齢者福祉事業に携わったのは、いずみの園を設立する10年前大分市に「めぐみ保育園」を開設したことに始まりますが、まさしく現在の少子化・高齢化社会を見据えていたような気が致します。子供は、自分が歩んできた道であり、高齢者はこれから先の自分の道であります。併せて障がい者施設経営まで手掛けられ、地域に貢献されておられますことに改めて賛辞を送りたいと思ひます。

在宅介護から、福祉施設やサービスが利用者から選ばれる時代になり、質の高いサービスと高度な専門性が求められるようになりました。この様な対策として介護技術の向上と、利用者に対する言葉遣い、態度、服装、マナーを徹底して見直したと聞きました。民間参入が進み社会福祉法人が経営的視点を求められるようになり、当然のこととして事業継続の責任が浮上してまいりました。

社会が変わり、制度が動く中にあっても常に選ばれる法人であり、質の高いサービスが提供できるよう努力を続けておられることにしっかりと応援をしたいと思ひます。

厚生労働省が高齢者、障がい者、子供、子育て中の親などを含めて『地域共生社会』の実現を目指しておりますが、地域の中で何が出来るのかを十分に判断し、地域でNo.1の誇りを持って存在感を発揮して頂きたいと思ひますが、今までの苦難を見事に切り開いてきた貴事業団には実現出来るものと確信致しております。

結びに、この40周年を契機に次の10年・20年・50年先を見据えて、『福祉のまちづくり』を拡大・発展させて頂きたいと祈念致しまして祝辞とします。

全国の新たなモデルとして

衆議院議員

岩 屋 毅



「社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園」の創立40周年、誠におめでとうございます。

1978年の創設以来、「信仰」「希望」「愛」をもって地域にお仕えするとの基本理念のもとに、一貫して社会福祉の最前線でパイオニアとしての役割を果たしてこられた、富永理事長をはじめとする「いずみの園」の職員の皆様に心より敬意を表したいと存じます。

この間の「いずみの園」の各般にわたる先駆的な取り組みは、常に大分県のみならず日本全国の社会福祉事業の新たなモデルとして注目を集めてまいりました。1988年には大分県で初めてのデイサービスセンターを併設して「在宅福祉」を先導されたほか、ユニットケア、ターミナルケア、リハビリ機能、そして24時間在宅サービスの強化などの取り組みは、今後の特養の在り方のモデルとして厚生労働省に報告され、全国各地の施設運営に大きな影響を与えてされました。

これに加え、2015年には障がい者の就労支援の拠点として「福祉の里センター サマリア館」を創設され、障がいのある児、者、高齢者、子ども、その保護者などがともに活動できる共生型のセンターとして全国から注目を集めておられます。

これらの取り組みを可能としたのは、理事長はじめ職員の皆様の信仰に基づく使命感と進取の精神によるものであると同時に、園が掲げられる「快適主義」「人間主義」「地域主義」というサービスコンセプトに共感された地域の皆様の温かいご理解とご協力があったからだと存じます。これまで「いずみの園」の成長と発展を見守り、ご支援をいただいた地域の皆様に対しましても、心より感謝申し上げたいと思います。

「人生百年時代」と言われる昨今、「いかにしてQOL (quality of life) を維持しつつ高齢期を過ごすか」という課題は万人に共通のものとなってまいりました。「いずみの園」は、そのためにおこなわれる国や自治体の政策決定を座して待つのではなく、創意工夫と献身的精神によって常に先進なチャレンジをおこない、政策づくりを着実にリードする役割を果たしてされました。この40年間の尊い歩みに対し、重ねて深甚なる敬意を表する次第です。

創設40周年の節目を機に、「いずみの園」が益々、我が国の福祉の最前線にあって益々の充実ご発展をなされますよう、心よりお祈り申し上げて、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

地域共生社会の実現を

大分県知事

広瀬 勝 貞



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園が創立40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴法人は、昭和53年、高齢化社会突入という時代背景から、特別養護老人ホームいずみの園を創立されました。以来、多様な高齢者福祉サービスを提供され、平成25年には「中津総合ケアセンター いずみの園」に改称し、福祉の総合拠点として障がい者の就労支援事業所を同時に開設するなど、社会の変化や地域のニーズに沿った事業を展開しながら、地域福祉の充実と向上に多大なご貢献をいただいています。

さらに平成27年には、介護保険サービス、障がい福祉サービス、子育て支援センター等の分野を越えた多彩な機能を集結した「福祉の里センター サマリア館」を開設し、社会の変化や地域のニーズに即した先駆的な取組を積極的に実施されています。

このような他のモデルとなる施設を築いてこられた冨永理事長をはじめ、役員及び施設関係者の皆様並びに歴代の役職員の方々のご努力とご労苦に対し、心から敬意を表します。

平成30年4月から、国においては「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が施行され、「地域共生社会」の実現を目指すこととされています。

この中で、地域において一体的な福祉サービスを提供する「共生型サービス」が新たに位置づけられました。今後、国の制度を先取りした貴法人の取組が他の法人にも大いに参考になるものと考えています。

貴法人におかれましても、長年培ってきた知識と経験を活かし、「キリスト教の愛と奉仕の精神」という基本理念のもと、サービスの一層の向上にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、貴法人の今後ますますのご発展並びに関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

時代の一步先を見据え

中津市長

奥 塚 正 典



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園の創立40周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。

貴法人におかれましては、保育園事業に始まり、昭和53年に「特別養護老人ホームいずみの園」を開設されて以来、ホームヘルプ事業、デイサービス事業、認知症のグループホームなど、地域のニーズに合わせた在宅サービスを幅広く展開されてきました。

また、住まい・医療・介護・予防・生活支援サービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」にも先駆的に取り組み、平成22年には小規模多機能型居宅介護事業、平成24年には県内初の24時間365日体制のホームヘルパー事業を開始するなど、中津市の高齢者福祉の向上に大きな貢献をされてこられたことに、深く感謝申し上げます。

さらに、平成27年には、地域共生社会の実現をコンセプトにした「福祉の里センター サマリア館」、平成29年には、障害のある方等の様々な相談に応じる「障害者等基幹相談支援センター」を開設されるなど、介護保険事業、保育・子育て支援事業、障がい福祉事業等を包括的に提供され、常に時代の一步先を見据えた取り組みは、全国的にも高く評価されているところでございます。

これもひとえに、理事長、役員の方々をはじめ、使命感と思いやり溢れる職員の皆様方の並々ならぬ熱意とご尽力の賜と、深く敬意を表す次第でございます。

中津市では、昨年、「暮らし満足No.1」を目指して「なかつ安心・元気・未来プラン2017」を策定しました。それぞれの暮らしのライフステージに応じた施策を積極的に展開してまいり所存ですので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これからも、長年培われた豊富な知識と経験を礎に、地域や利用者から愛され、信頼される地域福祉の拠点として、ますますご発展されますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

「志」を実現する人材と経営能力

厚生労働省 四国厚生支局長

鯨 井 佳 則



いずみの園創立40周年誠におめでとうございます。いずみの園の活動を長年に渡り支えて来られた皆様のご尽力に心から敬意を表します。

さて、私は、中津市副市長として在職した平成21年4月から3年半の間、新中津市民病院の建設、福祉の里づくり、行財政改革など様々な課題に取り組みました。富永理事長をはじめ、いずみの園の皆様には、当時進めていた地域密着型の「福祉の里づくり」に多大なご協力を頂き感謝に堪えません。

いずみの園では、ユニットケアや世代間交流型施設、住民サービスとの協働など先進的な取組を行って頂きましたが、中でも、大分県内で初めて「定期巡回・随時対応型訪問介護看護（24時間サービス）」を実施した際には、事業者としての底力に感服しました。同サービスは、居宅介護の限界点を上げるものとして導入されましたが、全国的には未だ普及が進んでいないのが実情です。こうした中で、いずみの園の取り組みは、全国でも有数の成功事例として注目を集めました。

中津市としても警察・消防など関係機関・団体との調整や各種助言など市を挙げて全面協力しましたが、成功の要因は、介護職員の層の厚さとスキルの高さ、高度な管理能力にあると感じました。福祉の理想を追うだけでなく、「志」を実現できるだけの人材と経営能力を兼ね備えた事業者としての姿を垣間見た思いでした。

時代は、住み慣れた地域で最後まで暮らしていただく地域包括ケアの推進や、障がい者・子育て支援を包含した「地域共生型社会」の実現に向かって動いています。四国厚生支局でも、昨年度から地域包括ケア推進課が新設されました。いずみの園の皆様と共に歩んだ日々が私にとっても大きな糧となっています。今後も時代の先端を歩むご活躍を期待しています。

地域包括ケアシステムの普遍化を

厚生労働省大臣官房総務課広報室長

吉 田 一 生



社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園、創立40周年、誠におめでとうございます。

福祉のまちづくりの中核を担い、40年にわたって地域に根ざした取組を継続されてきたことに敬意を表します。

私は平成19年度から21年度までの3年間、三重県健康福祉部長寿社会室長として、地域包括ケアの推進に微力ながら取り組んできましたが、いずみの園・富永理事長との最初の出会いは、まさにその時期でした。

今では「地域包括ケア」という言葉は当たり前のようにメディアを含めて使われますが、当時は専門職の皆様の中にあっても浸透していませんでした。そのような中にあっても、私が迷いなく地域包括ケア推進の取組を行うことができたのは、全国各地にはいずみの園を含む先進的な取組があり、それらを身をもって学ぶことができたから、さらには富永理事長を含む皆様が、取組に裏打ちされた理論的な説明を私にしてくださったからだと思っています。

その後、本省に戻った私は、大臣官房企画官として、現場には包括的な支援を求めているにもかかわらず、厚生労働省が縦割りであってはならないと、局をまたぐ法改正を提案しました。それが平成26年の「地域医療介護総合確保法」でした。

次のステップは、この地域包括ケアの仕組みを高齢者のみならず、地域で支援を必要とする方々へと普遍化することであり、それが塩崎厚生労働大臣の秘書官として迎えた平成29年の法改正でした。高齢者・障害者・子どもといった縦割りで整備されてきた制度は、谷間の問題や、複合課題を抱えた世帯の問題などへの対応に課題があるのです。

いずみの園の皆様は、まさにこれらの国の動きを踏まえて「福祉の里センター サマリア館」を開設されましたが、引き続き時代の先端をいく実践に取り組まれ、そして我々、厚生労働省職員に実践から生じる様々なお知恵を教えていただくことを期待しています。今後とも、共に歩んでいきましょう。

キリストに仕える働きに 祝福 豊かなれ

日本基督教団 九州教区総会議長

梅 崎 浩 二



中津総合ケアセンター いずみの園創立40周年の記念すべき時に当り、神の御慈みを讃えると共に、託された使命を献身的に担って下さった歴代理事長、理事、職員各位の御働き、並びに現職員の御努力に深い敬意を表します。

いずみの園を擁する九州キリスト教社会福祉事業団の設立は1974年の日本基督教団九州教区総会の決議によることでした。これに基き、76年に社会福祉法人たる本事業団が設立され、78年には現在に至る原点とも言うべき特別養護老人ホーム いずみの園が開設されました。以来、たゆみない努力のうちに、高齢者・障がい者・幼き者に仕える包括的な奉仕組織として本邦屈指の内実と環境を備えるに至られました。この歩みを顧る時、労重い日常の働きを担いつつ、更に進んで時代の痛みに聴き、これに応えようと努められた先達の、鋭敏にして細やかな心、そして深い祈りが偲ばれ、実に感謝に堪えません。

今日、「ケア」という言葉は既に日常の語彙となりました。その概念も広く認識されるようになったものと思います。この「ケア」の歴史的源流はキリスト教会にあります。4世紀のギリシア教父、ナジアンゾスのグレゴリオスは弱者・病者を看取る働きの中でこう記しました。「時があるうちにキリストを訪ねよう。キリストの世話をしよう。…キリストに着せよう。キリストを家に迎え入れよう。そしてキリストを敬おう。」一クライアントの中にキリストを見る奉仕の業に、彼とその同労者達は生きたのでした。

一人ひとりを至上の価値ある存在として尊ぶこの霊性と働きを継承し得るものこそ、神が御建て下さったいずみの園であるに違いありません。尊い務めに上よりの力が絶えず豊かに備えられますようにと、祝福を祈ります。

安心の拠り所として

中津商工会議所 名誉会頭

安 藤 元 博

創立40周年おめでとうございます。

いずみの園が創立された当時を振り返る時、高齢化社会の到来が言われ始めてはいたものの、一般社会もまたこの地域の人々もその意識はまだ低く、施設は一部の人の為という程の理解ではなかったでしょうか。現在の超高齢社会の到来は私共には想像にも及ばないことでありました。

そんな中、時代を見据えた先見性で、地域に必要とされる施設やサービスを他所に先駆けて次々と着実に整えられ、大分県はもとより国を代表する法人に成長されましたことは周知の通りであります。

介護保険法の制定で、誰もが必要な時に必要な介護サービスを利用することができる時代になりました。しかしながらいつも一歩先を見据え、先取りした事業展開をしてこられたいずみの園は、これからの10年、50年とどんな歴史を築いていかれるのでしょうか？更なる進化を期待しているところであります。

私自身も歳を重ね、いずみの園にお世話になれることを、実は安心と共に楽しみにも(?)しています(笑)。これからも私共の「安心の拠り所」として益々発展されますようにお祈り致します。



福祉のまちづくり

中津商工会議所 会頭

仲 浩

「社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園」創立40周年、誠におめでとうございます。40周年という記念すべき年を迎えられましたことは、富永健司理事長をはじめ役職員の皆様方の並々ならぬご尽力の賜物であり、深甚なる敬意を表しますとともに心からお祝い申し上げます。

いずみの園は、社会福祉の分野において、社会の変化や地域のニーズを的確に捉え、特別養護老人ホームや在宅介護サービス、また障がい福祉事業へとフィールドを拡げられております。現在では地域共生社会の実現に向けて様々な事業を展開し、福祉のまちづくりの先駆者として邁進されていることは、地域経済の発展に欠かせないものであり、福祉の拠点としての役割は非常に大きいものと信じております。

40周年という歴史の中で、「キリスト教の愛と奉仕の精神」を基本理念に、信・望・愛の心をモットーとしたケアに日々精進され、輝かしい軌跡を培われておられますことに、心から敬服する次第であります。

結びに、いずみの園のご隆盛と富永理事長をはじめ役職員の皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉といたします。



人材育成をテーマに

社会福祉法人 医療法人聖信会 理事長

古川 信房

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 中津総合ケアセンター いずみの園の創立40周年にあたり心よりお祝いを申し上げます。介護保険事業が始まる20年以上も前より現在の高齢化や認知症の問題に気づき、早くから取り組んでこられた先見性に心より敬服するとともに、事業を継続しさらに発展させてこられた、富永理事長をはじめとする職員の皆様のご尽力に心より敬意を表します。

私は特別養護老人ホームおよび認知症地域支援推進員の嘱託医として、また法人の評議員の一員として、微力ながら参加させていただいております。また、私の運営する地域密着型特別養護老人ホーム「さ蔵」に日頃より温かいサポートをいただいております。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

これから高齢化社会における医療需要の高まりを早くから察知され、介護施設の運営には医療が必要であると、他の特別養護老人ホームではあまり見られない「クリニックいずみ」を診療所として併設され、利用者の方々の要望にも応えてくれました。診療所は現在休診中ですが、嘱託医を務めさせて頂く中、いつも職員の方々に教えられることばかりです。「人材育成」もこの分野の大きなテーマですが、他の法人と比べ「いずみの園」ではその重要性を認識され、多くの時間をかけて、資質の高い職員を育てておられます。

2025年問題を迎える我が国は、地域包括ケアの推進が必須ですが、いずみの園にはそれを進めるすべての準備は整っています。この40周年を迎えるにあたり、現在の発展と成果は富永理事長をはじめとして職員の方々の並々ならぬ努力の賜物であることに心より感服し、皆様方の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。



全国に先駆けて24時間サービスを

弁護士法人 清源法律事務所 副所長社員弁護士

清源 万里子

このたび、いずみの園が創立40周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

いずみの園は、昭和53年に多田一三前理事長により創立され、大分県第1号のデイサービスセンターを開設、富永健司現理事長が施設長に就任されてからは、診療所、通所リハビリセンター、グループホーム新設と、地域の福祉サービスの充実に取り組まれてきました。平成22年には、富永理事長の先見性により、全国に先駆けてホームヘルパーの24時間サービスを開始されています。自身の老後を考えても、住み慣れた自宅で時間を問わずプロの介護員の支援を受けられることはどれほどありがたいでしょう。また、平成25年障がい者の就労継続支援事業開始、平成27年共生型センター サマリア館開設と、地域共生社会の実現に向けて先駆的に取り組まれています。

富永理事長は日頃より、「誰もが住んでみたいまち・中津」を目指していると語っておられます。理事長の掲げておられる理念と、いずみの園で働いておられる職員の方々のご努力が、誰もが安心して暮らせるまちを実現しておられることに心より敬意を表します。

結びに、いずみの園の今後益々のご発展と、皆様方のご活躍、ご多幸を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



福祉哲学を堅持する福祉共同体として

西九州大学 健康福祉学部社会福祉学科長・教授

滝 口 真

今から約20年前の1997年に「いずみの園ケア研究会」が発足した。富永理事長の企画指導において「ケアの科学化」と「魂のケア」を求めた研鑽の場であった。職員は原則自由参加とし、自発性を重視する学びの機会であった。経験、学歴、資格は不問。自らの問題意識を整理し、課題を客体化することによって、ご利用者に接近できることを学んだ。

各自がテーマを掲げて学会発表や論文発表として報告した。時は措置の時代であり、いずみの園の職員教育の礎を覚える。今まで経験値優先であったケアを省みて「ケアの品質」、「ケアの科学化」から「人格的ケアの実現」に昇華できたことは大きな成果であった。

当時のケア研究会のメンバーは現在、法人役員、各部署のトップリーダーとして重責を担っている。「福祉は人」である。職員自らの向上無くして、ケアの向上は成せない。その意味では、ケア研究会が果たした役割は小さくない。その後の「いずみの園のケアの質」を担保したといえよう。業務の肉体的疲労感をご利用者との人格的接触を通して精神的満足感に転化する能力が求められる。そのためには、常に自らがテーマを掲げて、制度変化が急速かつ多様に求められる福祉界にあって、流されない基本軸「福祉哲学＝キリスト教社会福祉援助」を堅持する福祉共同体であることを主に祈るものである。



無人駅で介護支援



⑤JR今津駅舎内に開設した指定居宅介護支援事業所「今津サポーターセンターいずみの園」の開設式に参加した地元住民ら

中津地区は周防灘に面し、産業は農業・漁業が中心。人口4125人（2017年10月1日時点）で、高齢化率32.9%（同）は旧市内11地区のうち2番目に高い。事業所は人口減少、高齢化が進む地域の福祉向上と活性化に努めようと、中津総合ケアセンターいずみの園（市内

中津市今津 高齢化対応へ事業所

中津市のJR今津駅舎内に、指定居宅介護支援事業所（今津サポーターセンターいずみの園）が開所した。市内でも高齢化が進む中津地区で、無人化した駅を介護・福祉の拠点として活用した新たな試みに期待が集まっている。JR九州大分支社によると、駅舎内に介護支援事業所を開設するのは初めてで全国でも珍しいという。4月20日に業務を始める。

地域を手助け

県内で初、2日業務開始

同駅は無人化に伴い、15年3月から市が委託する市シルバー人材センターが切符販売や清掃などの管理業務を担っている。事業所と駅舎を出入り口も含めて独立させ、セキュリティ上の懸念をクリアした。

28日に開所式があり、関係者約70人が参加。富永理事長や奥塚正典中津市長らがあいさつした後、施設内を見学した。中津総合ケアセンターいずみの園の伊藤保幸在宅サービス事業部長は「地域で長く自立した生活を送れるよう尽力する。交流の場として気持ちをお茶を飲みに来てもらい、地域の困りごとを解決する手助けができれば」と話している。

業務時間は午前8時半から午後5時半。日曜日定休。問い合わせは同事業所（☎0979・64・7886）へ。（吉田美佳）



永添、富永健司理事長が設置した。介護支援専門員6人体制で運営。介護ケアプランの作成その他、介護や福祉、健康の相談に対応する。同地区で開所先を探索中、無人の同駅舎に着目。1年ほど前から市の仲介でJR九州と協議を重ねて賃貸契約を結び、駅舎の一部（35平方メートル）を改装し、事務スペースや相談室などを設けた。



IZUMI NO SONO SOCIAL WELFARE COMMUNITY
40th ANNIVERSARY

組織概要



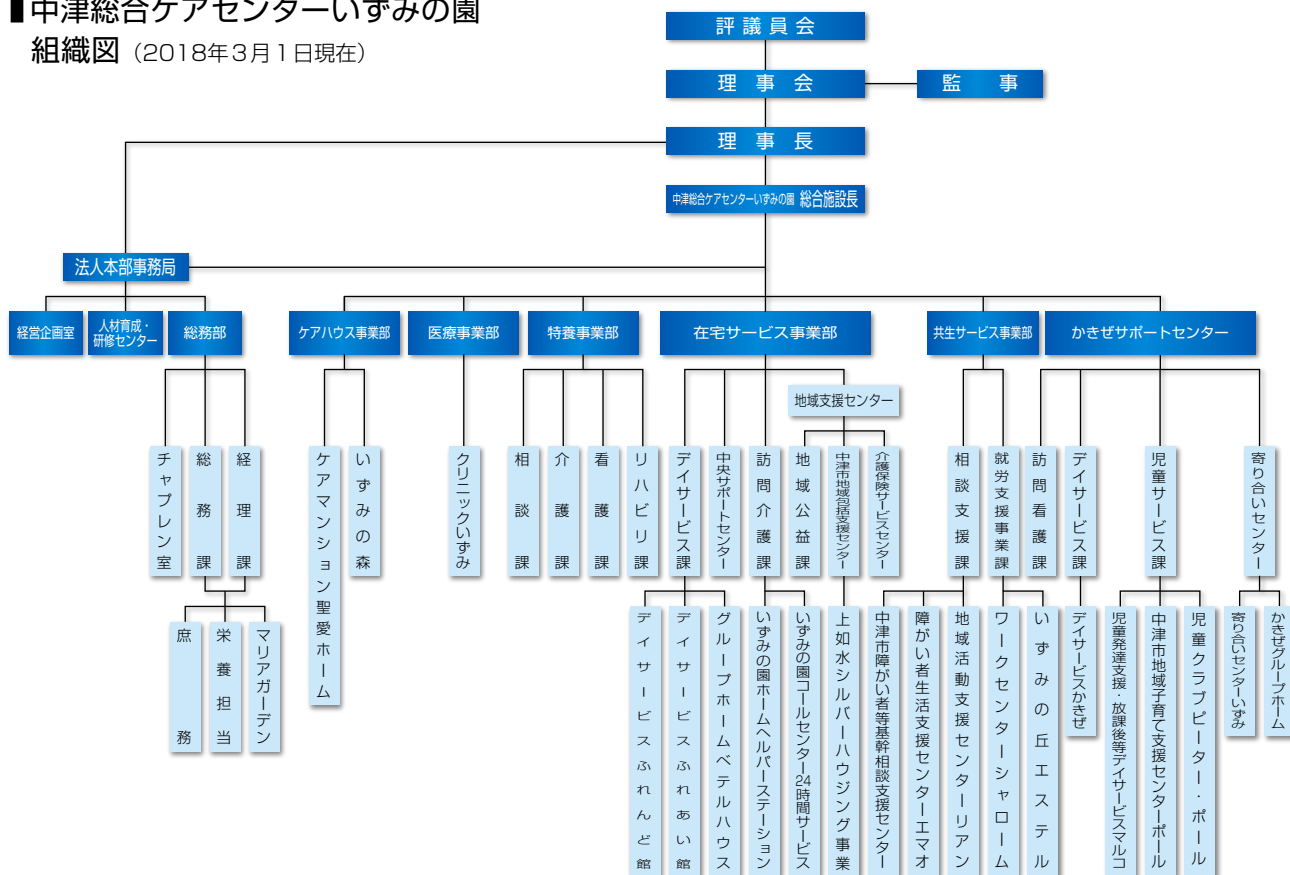
いずみの園ワークセンターシャロームご利用者の作品

MINO
ONO
40
ANNIVERSARY

組織図・役員名簿

■中津総合ケアセンターいずみの園

組織図 (2018年3月1日現在)



■役員名簿

(2018年3月1日現在)

●理事

富	永	健	司
有	馬		健
市	川	朋	克
島	田		晋
多	田	玲	子
谷	口	弘	美
堂	本	高	雄
廣	安	慎	太郎
松	本	新	子

●監事

金	枝	豊	治
武	下	英	二

●評議員

安	藤	元	博
大	継	徹	朗
清	源	万里	子
熊	井	カ	ホル
坂	田	弘	光
滝	口		真
高	山	優	治
古	川	信	房
福	成	清	子
古	江	信	一
吉	田	秀	久

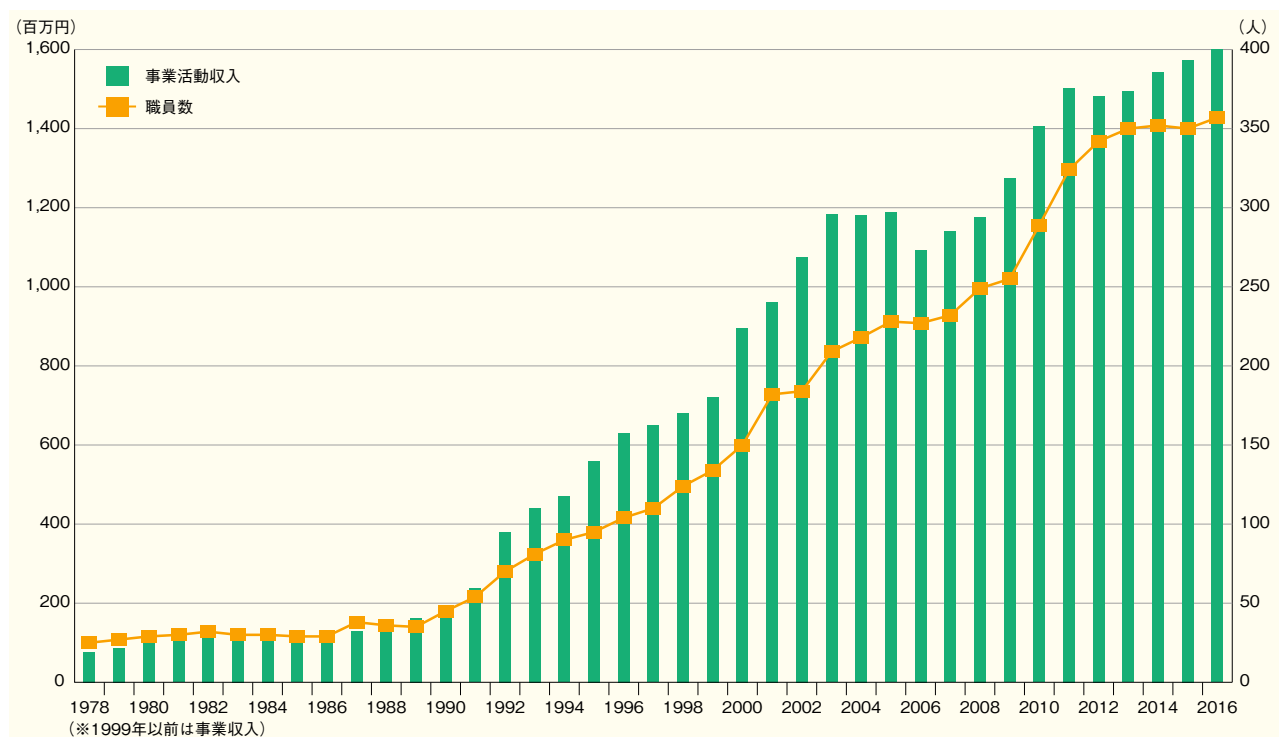
■介護保険 サービス事業

サービス種別	サービス名	いずみの園での事業所
介護サービス (介護予防を含む)	訪問介護	いずみの園ホームヘルプステーション
	訪問看護	いずみの園訪問看護ステーション
	居宅サービス	いずみの園デイサービスセンターふれんど館
		いずみの園デイサービスセンターふれあい館
		いずみの園中央サポートセンター
		いずみの園デイサービスセンターかきぜ
	短期入所生活介護	いずみの園ショートステイサービス
	居宅介護支援	いずみの園介護保険サービスセンター
	施設サービス	介護老人福祉施設
	特別養護老人ホーム	いずみの園
地域密着型サービス	夜間対応型訪問介護	いずみの園コールセンター
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	いずみの園コールセンター 24時間サービス
	小規模多機能型居宅介護	寄り合いセンターいずみ
	認知症対応型共同生活介護	いずみの園グループホーム（ベテルハウス）
		かきぜグループホーム（けやき・いちよう）
介護予防支援	介護予防支援	中津市地域包括支援センターいずみの園

■介護保険 以外の事業

サービス名	いずみの園での事業所
ケアハウス	ケアマンション聖愛ホーム
住宅型有料老人ホーム	シニアレジデンスいずみの森
医療機関	クリニックいずみ
生きがい活動支援通所事業	いずみの園デイサービスセンターかきぜ
障がい福祉サービス居宅介護	いずみの園ホームヘルプステーション
障がい福祉サービス重度訪問介護	
障がい福祉サービス行動援護	いずみの園デイサービスセンターかきぜ
障がい福祉サービス生活介護	
障がい福祉サービス生活介護	いずみの園丘エステル
障がい福祉サービス相談支援	中津市障がい者等基幹相談支援センター
障がい福祉サービス相談支援	障がい者生活支援センターエマオ
	中津市地域活動支援センターI型リアン
放課後児童クラブ	いずみの園児童クラブピーター
	いずみの園児童クラブポール
障がい児童発達支援	児童発達支援・放課後等デイサービスマルコ
障がい児放課後等デイサービス	
障がい者就労継続支援	多機能型（A・B型）事業所ワークセンターシャローム
地域子育て支援センター	中津市地域子育て支援センターポール
事業所内保育施設	マリアガーデン

■いずみの園事業活動収入・職員数推移





中津城(奥平家歴史資料館)
(いずみの園より約15分)



福澤諭吉旧邸
(いずみの園より約15分)



耶馬溪
(いずみの園より約20分)



特別養護老人ホーム いずみの園



いずみの園 デイサービスセンター
ふれんど館



いずみの園 デイサービスセンター
ふれあい館



グループホーム ベテルハウス



ケアマンション聖愛ホーム



事業所内保育施設 マリアガーデン



シニアレジデンス いずみの森



多機能型事業所 ワークセンターシャローム



いずみの丘 エステル



寄り合いセンター いずみ



福祉の里センター サマリア館

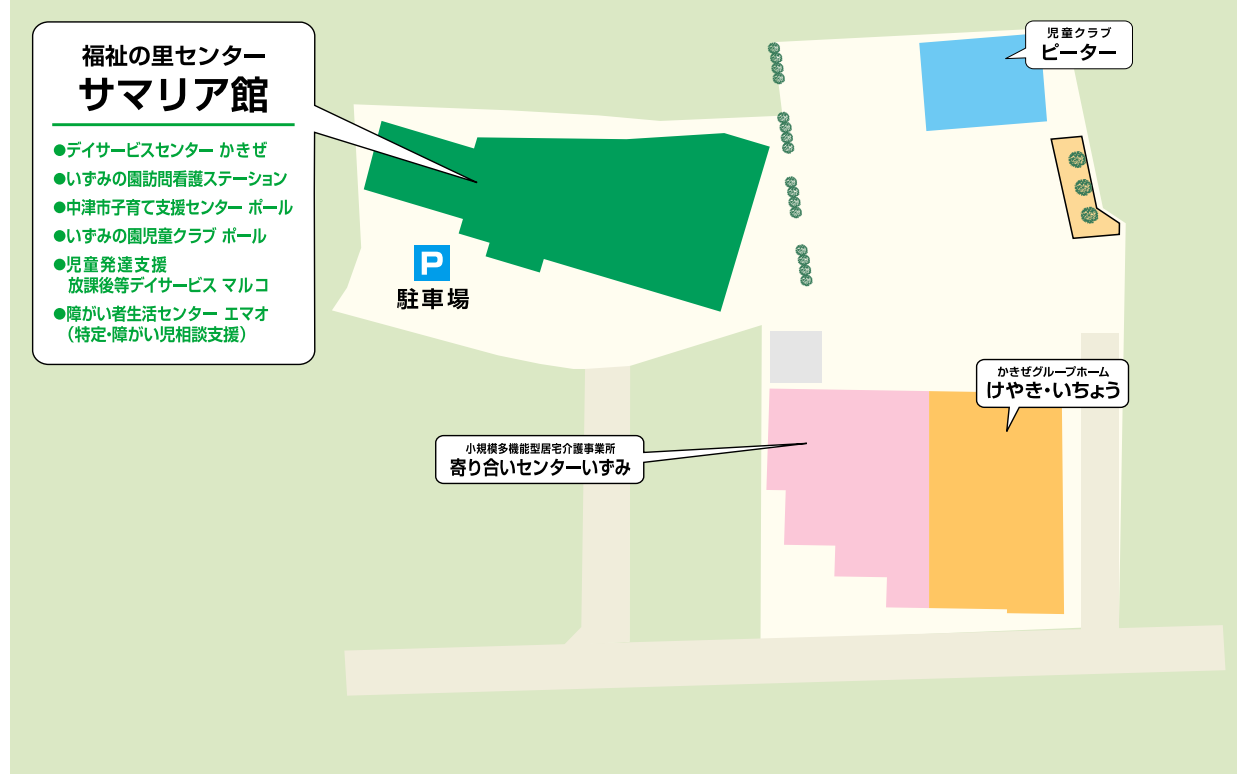


いずみの園 中央サポートセンター

本部・いずみの園



かきぜサポートセンター





IZUMI NO SONO SOCIAL WELFARE COMMUNITY
40th ANNIVERSARY

沿 革 40年の歩み



いずみの園ワークセンターシャロームご利用者の作品



沿革 40年の歩み

1978~1990

いずみの園の出来事（社会の出来事・中津史）

創設・社会のニーズに応じて

1978
S53年

4月 「特別養護老人ホームいずみの園」
（定員50名）新築開設

日中平和友好条約

8月 中津総合運動場が完成



創立者
2代目施設長
1985-2001
多田 一三氏



初代施設長
1978-1985
陶山 茂氏

1979
S54年

2月 中津文化会館 竣工
中津市制50周年記念式典

1981
S56年

8月 「特別養護老人ホームいずみの園」
老人短期入所事業（定員10名）開始

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世来日

6月 耶馬溪ダム 定礎式



1983年10月 運動会
職員一致協力の傑作「世界の花嫁さん」



1982
S57年

11月 中津市役所の新市庁舎竣工

1983
S58年



1983年11月 お茶会
表千家土井社中



1983年12月
クリスマス会ヨルダン会



横井ドクターサンタ

1984
S59年

11月 新一万円札の顔に福澤諭吉

1986
S61年

3月 豊の国テクノピア博覧会開催



1986年1月 お正月



1986年10月 運動会



1986年11月 もみじ狩り

1988
S63年

1月 「いずみの園デイサービスA型ふれんど館」、
大分県第一号施設として事業開始

3月 青函トンネル開通



1988年1月 いずみの園デイサービス開設

1990
H2年

9月 「いずみの園」ホームヘルプ事業開始
12月 「いずみの園在宅介護支援センター」事業開始
日本人初の宇宙飛行(秋山豊寛)

1992~2002

いずみの園の出来事（社会の出来事・中津史）

1992
H4年

4月 「特別養護老人ホームいずみの園」 定員を100名に変更、
うち認知症老人専用棟20名として事業開始
7月 「大分県地域介護実習・普及センターいずみの園」 事業開始
育児休業法が施行
国際平和協力法(PKO法)公布



1992年10月 南庭での食事会

1993
H5年

4月 中津市立小幡記念図書館開館



1995年 5月 交通安全運動

1994
H6年

4月 「デイサービスE型ふれあい館」 事業開始

1995
H7年

9月 ケアハウス「ケアマンション聖愛ホーム」
(定員50名) 新築開設

地下鉄サリン事件

1月 阪神・淡路大震災M7.3



1995年 6月 七夕

1996
H8年

11月 北大道路(現10号線)全面開通

1997
H9年

10月 「いずみの園」 老人訪問看護事業開始

消費税5%に増税

ダイアナ元英国皇太子妃が交通事故死



1995年12月 クリスマス会

介護保険スタート - 多機能化

2000
H12年

4月 介護保険法の施行、指定介護保険事業者として
介護保険事業開始

「めぐみ保育園」定員を90名に変更



2000年 8月 訪問入浴サービス開始



配食サービス開始

2001
H13年



3代目施設長 2001 ~
富永健司氏



2002年 7月 認知症グループホーム
「ベテルハウス」開設

2002
H14年

7月 認知症老人グループホーム「ベテルハウス」
新築開設

8月 診療所「クリニックいずみ」、
通所リハ「リハビリセンターいずみ」新築開設

10月 「障害者生活支援センターエマオ」(中津市委託)事業開始

北朝鮮の拉致被害者5人が帰国

アジア初のサッカーワールドカップ開催(日韓共催)



2002年 8月 クリニックいずみ開設
通所リハビリセンターいずみ開設

沿革 40年の歩み

2003~2010

いずみの園の出来事（社会の出来事・中津史）

2003 4月 「グレース保育園」新築移転、同時に定員を120名に変更

H15年 6月 旧グレース保育園跡地にて
「デイサービスセンターかきぜ」事業開始

米、英軍がイラク攻撃(イラク戦争)

振り込め詐欺(オレオレ詐欺)横行



2003年6月 旧グレース保育園跡地に
「デイサービスセンターかきぜ」開設

2005 4月 「いずみの園ショートステイ」7室増床(2007年8月、10床増床 計27床)

H17年 ロンドンで同時爆破事件

愛知万博開催

3月 福岡県西方沖地震(玄界灘)M7.0



2005年4月 ショートステイ増床

2006 2月 有料老人ホーム「シニアレジデンスいずみの森」
(定員14名)新築開設

H18年 平成18年豪雪

北朝鮮が7発の弾道ミサイル、日本海上にも着弾



2006年2月 有料老人ホーム
「シニアレジデンスいずみの森」開設

2007 1月 「犀川のぞみ保育園」火災復旧工事完了

H19年 3月 特養の一部を増改築しユニット型として開始

4月 かきぜサポートセンターにて

「いずみの園児童クラブピーター」(中津市委託)事業開始

8月 特養の一部を増改築しユニット型(40床)

日本郵政公社民営化(JP発足)

さらなる展開へ

ー要援護者（高齢者、障がい者、児童）へ包括サービス

2008 4月 かきぜサポートセンター内に「いずみの園児童クラブピーター」新設

H20年 リーマンブラザーズ破綻をきっかけに金融危機



2008年 旧かきぜと児童クラブ

2010 4月 夜間対応型訪問介護事業「いずみの園コールセンター」開始

H22年 7月 小規模多機能型居宅介護「寄り合いセンターいずみ」(定員25名)、認知症対応型共同生活介護「かきぜグループホーム」(定員18名)新築開設

宮崎・家畜伝染病「口蹄疫」被害

尖閣諸島で中国漁船が巡視船に衝突



2010年4月 コールセンター



2010年7月 かきぜグループホーム
1周年記念食事



2010年 寄り合い しめ縄作り

2011~2014

いずみの園の出来事（社会の出来事・中津史）

2011
H23年

4月 「日中一時支援事業所マルコ」(中津市委託)開始

4月 「犀川のぞみ保育園」定員を40名に変更

3.11東日本大震災M9.0

東電福島第一原発事故

3月 九州新幹線全線開通



2011年4月 マルコ お誕生日会

2012
H24年

4月 通所介護「デイサービスセンター北堀川」(定員15名)事業開始

事業所内保育施設「マリアガーデン」(定員20名)新築開設

5月 定期巡回・随時対応型訪問介護看護「いずみの園コールセンター
24時間サービス」事業開始

6月 通所介護「いずみの園中央サポートセンター」(定員25名)
事業開始

東京スカイツリー開業

山中教授がiPS細胞でノーベル賞受賞



2012年 中央サポートセンター リハビリ風景



2012年 北堀川祇園山車



2012年 マリアガーデン参観日



2012年10月
ハロウィン行事

2013
H25年

4月 「中津総合ケアセンターいずみの園」へ名称変更

「多機能型事業所ワークセンターシャローム」

(障がい者就労継続支援事業定員A型10名、B型10名)事業開始

10月 ユニットリーダー研修実地研修施設に認定

(全国個室ユニット型施設推進協議会)

富士山が世界文化遺産登録

国東半島宇佐地域が「世界農業遺産」(GIAHS)に認定



2013年 シャローム 清掃

2014
H26年

4月 「めぐみ保育園」増築工事完了 定員を120名に変更

「特別養護老人ホームいずみの園」(多床室)を定員60名へ変更

「特別養護老人ホームいずみの園ヨハネ館」(ユニット個室)

定員40名として新設

消費税8%に増税

青色LEDで3氏がノーベル賞受賞

NHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」



2013年 シャローム作業風景

沿 革 40 年の歩み

2015~2017

いずみの園の出来事（社会の出来事・中津史）

2015
H27年

4月 かきぜサポートセンター内に「福祉の里センター サマリア館」
新築事業開始
「福祉の里センター サマリア館」内に「いずみの園 児童発達支援・
放課後等デイサービス事業所マルコ」(定員10名)事業開始
「福祉の里センター サマリア館」内に「中津市地域子育て支援センター
ボール」(中津市委託)事業開始
「福祉の里センター サマリア館」内に
「いずみの園児童クラブ ボール」
(中津市委託)事業開始

11月 塩崎厚生労働大臣来園

イスラム国(ISIL)による日本人拘束・殺害
パリ同時多発テロ
東九州自動車道県内全線開通



2015年 デイかきぜ・児童クラブ
ピーター・ポール 交流



2015年 マルコ お店さんごっこ



2015年 デイかきぜサマリア館
ホール



2015年 支援センターボール
行事 お話広場



2015年 二毛作会集合



2015年 塩崎厚生労働大臣来訪
サマリア館



2016
H28年

8月 「いずみの丘 エステル」(障がい者生活介護 定員6名)事業開始

4月 熊本・大分で大地震
東九州自動車道椎田南IC～豊前IC開通
耶馬溪日本新三景選定100周年
「八面山」の日本夜景遺産認定

2017
H29年

4月 「中津市障がい者等基幹相談支援センター」(中津市委託)事業開始

5月 「地域活動支援センターⅠ型 リアン」(中津市委託)事業開始

7月 九州北部豪雨、9月台風第18号自然災害が多発
「やばい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～」が日本遺産に認定

施設改革

施設改革3カ年戦略（1997年度～1999年度）

2000年の介護保険導入を見据え、取り組むべき課題を明示。利用者はお客様であり、民間企業の参入も見越して『選ばれる施設』へと変化していかなければならない。

具体的な課題は、①「施設の多機能化」、②「地域密着・連携の強化」、③「サービス業としてのマナー」、④「専門的技術・プロのサービス」、⑤「業務のパソコン利用」、⑥「ブランドイメージのアピール」、⑦「組織力の開発」の各項目で、経営陣はもちろん、第一線の職員に至るまで自覚を持った取組を行う。

1. 職員の意識改革
2. アメニティサービスからユニットケアへ
3. 多機能化、医療部門の整備
4. サービスの質の確保
5. 経営体質への変換

いずみの園新5か年プラン（2012年度～2016年度）

2012年4月、国の第5期介護保険事業計画がスタートする。団塊の世代が後期高齢者に入る2025年までに、中学校区を単位に「住まい、予防、介護、医療、生活支援サービス」を包括的継続的に提供する「地域包括ケアシステム」を完成させるという。

一方、政府は財政基盤確保のため「社会保障と税の一体的改革」の議論を本格的に進めている。年金、医療、介護の社会保障制度の転換期を迎え、また社会福祉法人の見直しが行われる中で、いずみの園は社会福祉法人としての公益性、公共性、先駆性そして独自性を堅持し、これからの10年を展望しつつ「いずみの園新5か年プラン」を策定する。

1 「中津総合ケアセンターいずみの園」構想

国がすすめる地域包括ケアシステムを推進し、高齢者、障がいのある人、児童、母子、貧困など地域の福祉ニーズ全般に対応できる総合ケアセンターを目指す。

- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・24時間対応サービスの充実
- ・事業の多角化、総合化を図る
- ・行政・地域との連携の強化
- ・地域コミュニティの拠点化

2 「障がい事業」の開発

- ・多機能型一就労継続支援事業A型・B型（ワークセンター）
- ・グループホーム

3 共生型「かきざサポートセンター」事業の推進

- ・高齢者・障がい事業、児童クラブ
- ・地域交流スペース、障がい事業所（分場）
- ・日中一時支援事業

4 新規事業の開発

- ・中央サポートセンター開設
- ・デイサービスセンター北堀川開設
- ・その他サポートセンターの調査、研究

5 事業団組織・機構改革・法人本部機能の強化

- ・3保育園の連絡協議会
- ・いずみの園の機構改革
- ・各事業部門の自立的経営
- ・いずみの園新人事考課制度の試行
- ・中間管理職の育成

6 サービスの質の確保

- ・科学的介護の推進
- ・サービスコンセプトの推進
 - ①アメニティ
（快適主義－快適なサービス、マナー）
 - ②ヒューマニティ
（人間主義－一人としての尊厳性を守る）
 - ③ローカリティ
（地域主義－地域密着型事業）
- ・ホスピタリティ
「もてなしの心」－良きサマリア人（聖書）
- ・感動を呼ぶサービス、スピリチュアルケア
（心に触れるケア）

7 ワーク・ライフ・バランス(WLB)

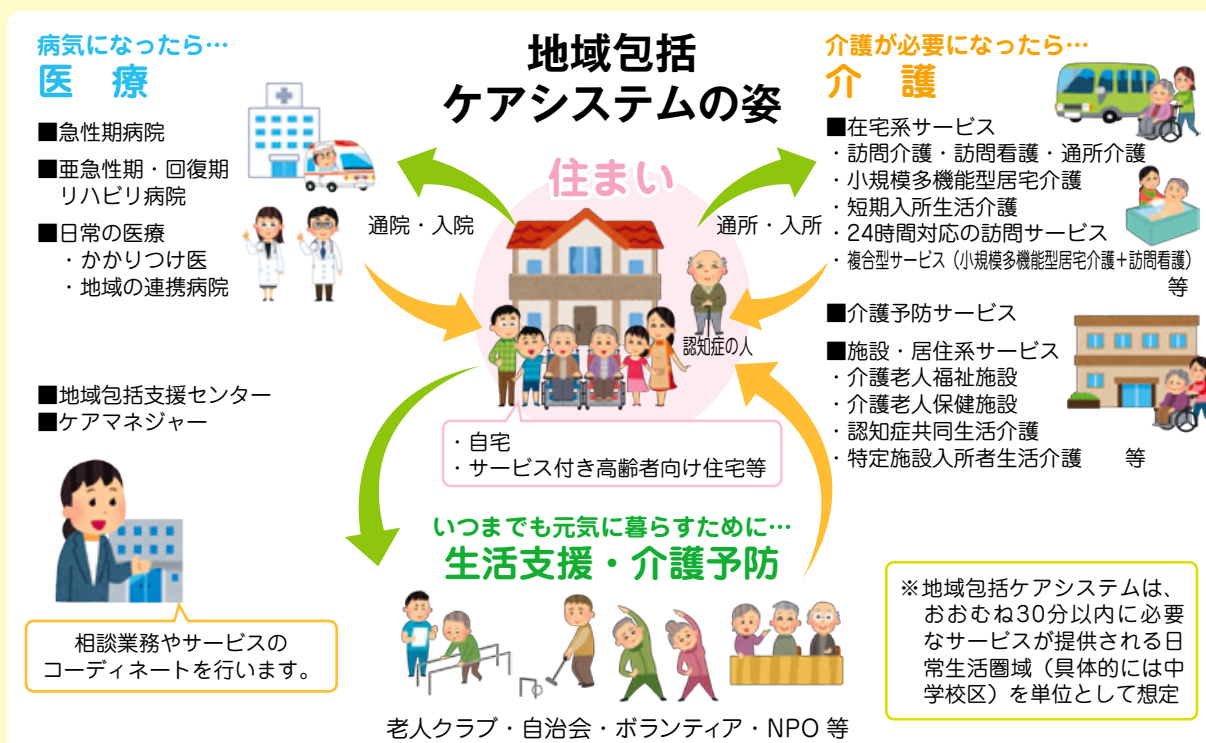
- ・働き甲斐のある職場づくり
- ・事業所内保育施設「マリアガーデン」の設置
- ・リフレッシュ休暇（5連休）、年休消化の推進



（法人本部・事務所）

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**です。



いずみの園の地域包括ケアシステム構想

- 住み慣れた地域で最期まで自由に暮らしていただく
- 良質な特養ケアの地域展開、24時間365日在宅生活支援

1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
2. 地域サポートセンター
小規模多機能型居宅介護、グループホーム
中央サポートセンター
3. 認知症対策、医療との連携
認知症カフェ
徘徊模擬訓練
4. 「高齢者、子ども、障がい者、貧困」総合対策
5. 地域との連携



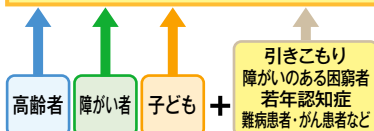
～新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン～

4 つ の 改 革

新しい地域包括支援体制

〔包括的な相談支援システム〕

1 包括的な相談から見立て、支援調整の組み立て+資源開発



○地域により
・ワンストップ型
・連携強化型 による対応

○地域をフィールドに、保健福祉と雇用や農業、教育など異分野とも連携

誰もがそのニーズに合った支援を受けられる地域づくり

2 高齢、障がい、児童等への総合的な支援の提供

○多世代交流・多機能型の福祉拠点の整備推進
・運営ノウハウの共有
・規制緩和の検討 等
○1を通じた総合的な支援の提供

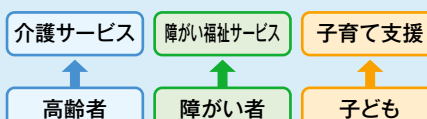
サービス提供のほか地域づくりの拠点としても活用

背景・課題

①福祉ニーズの多様化・複雑化

複合的な課題を有する場合や分野横断的な対応等に課題

〔制度ごとのサービス提供〕



②高齢化の中で人口減少が進行

地域の実情に応じた体制整備や人材確保が課題

新しい支援体制を支える環境の整備

4 総合的な人材の育成・確保

○1を可能とするコーディネート人材の育成
○福祉分野横断的な研修の実施
○人材の移動促進 等

3 効果的・効率的なサービス提供のための生産性向上

○先進的な技術等を用いたサービス提供手法の効率化
○業務の流れの見直しなど効率的なサービスの促進
○人材の機能分化など良質で効果的なサービスの促進 等

地域住民の参画と協働により、誰もが支え合う共生社会の実現

(1)第8号

いずみの園だより

1986年(1986(昭和61年)5月1日



いずみの園だより

〒811-01 中津市大字永添2744
社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団
特別養護老人ホーム

いずみの園

電話 09792816168
(発行責任者
園長 多田 一三

この人達を愛して

園長 多田 一三

いずみの園は、この四月をもつて開園八周年を迎えました。前庭の植木や石も建物にすっかり馴染み、四季折々の美しい風景を描き、私達の目をたのしませ、心をなごませてくれています。このような周囲の牧歌的、叙情的なたたずまいとはうらはらに、園の御年寄り一人ひとりには生きるために大変辛く苦しい毎日を過しておられます。心身に大きな痛みを憶えながら厳しい闘病生活を送っておられる方がばりです。職員達の手厚い介護をうけているといっても、心ならずも住みなれた家や家族の温かい交りから離れ、孤独感と絶望的な思いに打ちひしがれまいとひたむきに生きておられます。このような御年寄りと日々のふれあいの中で、私達がいつも心に浮ぶことは、この方々に何とかして生きる喜びをもたせてあげたいという願いです。一時的な単なる気休めではなく、心の奥底からふつとわきでるような喜びです。そのような喜びとなると、私達は信仰による喜び以外思いあたりません。生きる時も死ぬ時も、いつも共にいて助けて下さる主の御臨在を信じることで、私達が語る聖書のメッセージ

に、御年寄の皆さんは熱心に耳を傾け、聞いて下さいます。手をにぎり祈ってあげる時、涙と共に心のふれあいを感じます。いずみの園を訪れる人は皆、この園は明るいといわれます。明るさの秘訣はいずみの園に、主の御臨在の信仰が徹底していることだと思います。私達はこのことのために召されているという自覚をもって、日々の業務にかかわっています。

又、園をとりまく社会状況は激しく揺れ動いています。園および地方財政の逼迫は、補助金カット、受益者の費用負担の増大等、園の運営をおびやかしています。

このような状況にあっても、私達は、この人々を愛し、いとおしみ、かけがえない生命を少しでも豊かな思いで生き抜くよう御世話と奉仕に徹しようという心を持っています。教会や地域の方々、さらにさまざまな関係して下さる方々の温かい御支援と御祈りを願っています。

「父なる神のみまに清く汚れない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにはかならない。ヤコブ一・二十七

会館時代へ
地域の安心のシンボルとして

[illegible]

1



介護保険総合ケアセンター
いずみの園だより

2001年(平成13年)1月31日

第 **31** 号



社会福祉法人
いずみの園社会福祉事業団
介護保険施設「ケアホーム・いずみ」

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
大塚の森大塚大塚ビル 7F(411)-0420
TEL 03(7)-23-1810 FAX 03(7)-23-1382
E-mail : iun@net.03.ac.jp, info@net.03.ac.jp

特別養護老人ホーム(介護老人保健施設)
デイサービスセンター
高齢者住宅「いずみ」
ケアホーム・いずみ・リビング
訪問看護ステーション
訪問介護ヘルパー・ケアセンター
訪問介護ヘルパー・ケアセンター
訪問介護ヘルパー・ケアセンター
訪問介護ヘルパー・ケアセンター



愛と癒し

いずみの園の介護士長官は、朝日新聞のインタビューに「介護は突然病サージビースト」と答えた。(平成二十一年十月四日付毎日新聞)

施設で生活した高齢者は、人生の晩年まで健康な方々の時よりも、生活全体を驚きに包まれ、食事や健康も全てを医師に任せ、食事も半分が薬品で出来てくる。そのうち一部分が法律により至らなくて介護者に預けられる状況となり、周囲を以て信頼の喪失となり。

介護者は、その信頼と報酬に見合う価値がないサービスを提供する義務がある。適正なサービスとは継続された関係と、それが専門的に実行された場合不足のものでもなければ、お客さまを満足させるものでなければならない。

介護サービスは単に他のサービスの延長ではなく、そこに提供されるサービス品質としての質的利用者の生活の質、人生の質までも決定づけるものだから、介護士は愛と誠意というものが求められ、ほめてもらうことが必要と「希望」が実現する。介護サービスが突然病サージビーストと言われるゆゑにある。

いずみの園副院長 富永 健司

1



介護保険総合ケアセンター
いずみの園だより

2001年(平成13年)4月20日

第32号

社会福祉法人
九州ホリスティック教育福祉事業団
介護保険総合ケアセンター いずみの園
大分県大分市大字原7442-4(〒871-0103)
TEL 0974-31-1010 FAX 0974-31-1193
E-mail izumiken@izo.or.jp

特別養護老人ホーム(特別老人福祉施設)
アイサー・ビスセンター
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)
特別生活介護施設(特別老人福祉施設)

ケアワーカー・指導ヘルパー(福祉)
介護職員(福祉)
介護士(福祉)
介護士(福祉)
介護士(福祉)
介護士(福祉)
介護士(福祉)
介護士(福祉)

[illegible]

1

[illegible][illegible]

1

専門家集団 いずみの園 職員一人ひとりが輝いています
2001年(平成13年) 10月20日 第34号



安心・安全　こころやすまる住まいづくり
2003年(平成15年) 4月20日 第38号

自分らしく生きる 感動のサービスユニットケア
2004年(平成16年) 11月10日 第42号

事業と理念
2007年(平成19年) 2月15日 第46号

24時間365日 そして生涯安心
2010年(平成22年) 4月25日 第50号

中津総合ケアセンターいずみの園スタート
2013年(平成25年) 4月25日 第57号

地域福祉の拠点として
2015年(平成27年) 4月24日 第63号

福祉の街・中津づくりを目指して
2016年(平成28年) 4月25日 第66号

福祉のまちづくりの中核としてのいずみの園
2017年(平成29年) 12月4日 第71号

IZUMI NO SONO SOCIAL WELFARE COMMUNITY
40th ANNIVERSARY

事業紹介



いずみの園ワークセンターシャロームご利用者の作品



特養事業部

特別養護老人ホームが40周年を迎えて

特別養護老人ホームいずみの園は1978年に定員50名の施設として創設されました。その後、定員は100名、ショートステイの定員も10名から27名となり、同時に職員数も増え、多くの人が携わる施設となりました。

そんな中、集団ケアに疑問を感じ、2007年には現在のいずみの園のユニットケアの基礎となるユニット型居室を増床しました。現在では個別ケアへの取り組みや各種委員会の取組による改善を行い、ご利用者・ご家族への安心安全の提供に努めています。

昨年から始めた家族懇親会にはご家族の方々が、日頃の行事を実際に映像で、その取り組みの内容をご覧いただき、ご利用者の生活と職員の関わりをご理解していただけるようにしました。

私たちはこれから高齢化が進む地域の中で、生涯を安心して過ごせる施設づくりを、多職種が協働して続けていくとともに、40年の歴史の中で先人たちの作ってきた歴史、地域の信頼をこれからも引き継いで、地域の中で、地域と一緒に紡いでいきたいと考えています。



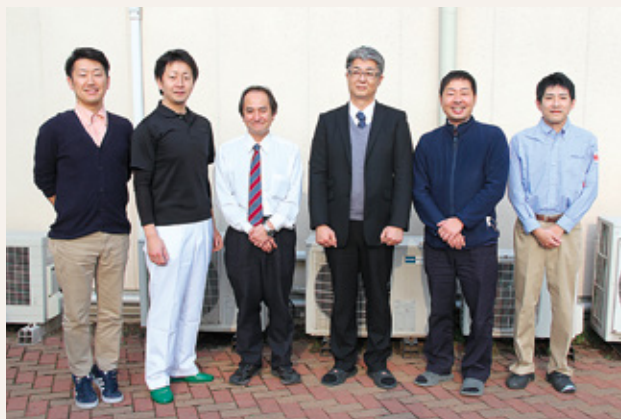
上ノ原地区・いずみの園合同盆踊り大会

1. 相談課

相談課は、ご利用者・ご家族が安心して生活が送れるように、法人・施設内、関係機関等との連絡調整を行っています。

そして、ご家族との関わりとして、「施設で行っていることを知ってもらいたい」「職員がもっと身近な存在になれるように」と2016年から家族懇親会を開催しています。

施設とご利用者・ご家族、そして地域とのつなぎ役として、これからも皆様へ楽しみのある生活の提供を取り組んでいきたいと思っています。



介護課 課長 野見山 晃 リハビリ課 課長 高倉 哲也 特養事業部 次長 枅 真司 施設長 市川 朋克 相談課 課長 田中 伸治 看護課 課長 河野 和樹



家族懇親会

2. 看護課

特別養護老人ホームは、40年前より医師、介護士、相談員、看護師とが協力してご利用者のお世話を行ってきました。今でいう「多職種協働」を早くから行っていたと思います。その中で看護師は日々の健康チェックを行いながらご利用者の異変や異常を早期に発見し、医師との連携のもと、早期対応を行っています。

また、医療依存度の高いご利用者が入居されても柔軟に対応し、最期まで安心して生活できる場所となるよう「看取りケア」にも取り組んでいます。



NST（栄養サポートチーム＝多職種協働チーム）

3. リハビリ課

リハビリ課は、歯科衛生士・作業療法士・理学療法士3名で入居のご利用者ならびにショートステイご利用者の心身機能・日常生活動作能力の維持に従事しています。また特養では約10年前より「誤嚥性肺炎や褥瘡予防」のための活動を行ってきましたが、2016年度からは、栄養サポートチーム（以下NST）に変更し、医師や歯科医師の指示のもと「食の安全管理」に取り組んでいます。

現在の国の方針では地域包括ケアシステムの構築に力を入れており、当園でも2017年度は中津市からの委託を受け、各専門職が在宅で暮らしている対象者の自宅や病院等への訪問指導を行いました。

今後も特養だからこそできる視点で「地域の介護予防」の支援も行っていきます。



リハビリ職員派遣事業の様子

4. 介護課

ご利用者お一人おひとりの個性・プライバシーを尊重し、自立支援の視点に立ち、生活がより快適で、その人らしいものになるよう、家庭的な環境づくりに努めています。様々な行事の起案や外出、外泊、地域行事への参加も行い、思い出の場所や家族とのつながりを継続することで、入居してもそれまでの生活をできる限り継続し、楽しみのある生活の支援を行っています。

また、職員は研修や勉強会の参加により知識・技術を身につけ、ケアの根拠を理解することで介護の専門職としての責任と誇りを持ち、やりがいをもって働くことのできる職場づくりに努めています。

今後も「あなたに出逢えてよかった」「あなたのケアが忘れられない」「いずみの園に入居できてよかった」と思っただけの施設づくりを目指していきます。



特養夏祭りの様子

在宅サービス事業部

在宅サービス事業部は、専門的ケア、個別支援、行政との連携、そして地域支援で地域に根付き、地域に信頼され、必要とされる支援体制作りに努めています。

1. 通所系在宅サービス

ふれんど館は、1988年（S63）大分県第1号のデイサービスとして始まり、定員35名（年末年始除く）で実施しています。2016年9月より建物を一新して、軽度の方ばかりではなく、重度の方へも四季折々の行事等を通して、仲間作りや作業療法士を中心とした機能訓練など幅広いサービスを提供しています。



ふれんど館の様子

ふれあい館は、1994年（H6）に事業開始し、2016年（H28）定員12名（日曜日、年末年始除く）の地域密着型の認知症予防（対応）型通所介護となりました。戸建住宅で炊飯や汁作りを一緒に行い、家庭的な雰囲気の中でサービスを提供しています。



学習療法

また、KUMON「学習療法」を導入し、認知症予防・維持・改善に努めています。



在宅サービス事業部 部長 デイサービス課 課長 地域包括支援センター 課長 訪問介護課 課長 中央サポートセンター 課長 在宅サービス事業部 次長
谷口 弘美 須崎 敏治 河端ハツエ 橋本 由美 松井 学 伊藤 保幸

中央サポートセンターは、2012年（H24）軽度の方を対象に「自立支援」「自由選択」「機能訓練」をもとに定員25名（日曜日、年末年始除く）で実施しています。1階では、各種機能訓練機器を設置し、作業療法士を中心に在宅生活維持への機能訓練を行っています。2階では、文化教室や木工などの生きがいにつながる活動の他、カラオケや麻雀等、趣味活動を自由選択できるサービスを提供しています。



個別機能訓練

2. 訪問系在宅サービス

ヘルパーステーションは、1990年（H2）に事業開始しました。1998年（H10）には厚生省（現、厚生労働省）在宅福祉サービス総合化モデル事業委託（県内第一号指定）を受けて24時間派遣を始め、その後、2010年（H22）夜間対応型訪問介護事業を開始し、2012年（H24）定期巡回・随時対応型訪問介



介護看護事業を開始しました。現在、総合事業等を含め7つの事業を24時間365日実施しています。



訪問時の様子

3. 相談系在宅サービス

居宅介護支援事業所は、2000年（H12）介護保険法施行と同時に事業開始しました。住み慣れた地域で可能な限り安心・安全に生活できるように、「迅速・丁寧・親切」をモットーにいつでも安心して相談・支援ができるよう24時間365日の連絡体制を確保し、ご本人やご家族の意向に沿って、必要な介護サービスやその他（保健・医療）サービスが受けられるよう支援いたします。

地域包括支援センターは、2009年（H21）在宅介護支援センターより地域包括支援センターとなり事業開始しています。地域住民の保健・福祉・医療の向上、介護予防マネジメント等を総合的に行う拠点として、お元気な高齢の方から介護が必要な高齢の方まで幅広くサポートする地域住民の皆さんの身近な相談窓口や介護・健康・福祉・虐待防止・権利擁護など、高齢者の暮らしにかかわるあらゆる相談や問題に対応する相談窓口です。また、行政・医療・福祉の専門機関・介護サービス事業所・住民組織など、地域のさまざまな組織や人材と連携して、包括的な

支援を行っています。活動として、介護予防教室やオレンジカフェ、徘徊模擬訓練等を地域の方々と実践しています。

地域公益課

地域における社会資源の一つとして、その専門性や機能を活かし社会福祉法人ならではの公益的な社会貢献活動の推進の取組として、2015年（H27）4月コミュニティーソーシャルワーカー（CWS）1名を専任で配置し事業開始しました。「社会福祉法人社会貢献活動推進事業」と「生活困窮者等相談支援事業（おおいた 暮らしサポート事業）」の2本柱とし、社会福祉法人による地域公益活動の展開と推進に取り組んでいます。活動内容として、中津市を中心に生計困難者への総合相談、支援事業の実施、必要に応じて日用品の給付、食事や一時的な住まいの提供（現物給付）等を行っています。

4. 認知症居住系サービス

グループホーム「ベテルハウス」は、2002年（H14）7月より、1ユニット（定員9名）を対象に、ゆっくりとしたホールと、個室には収納スペースやトイレを完備した平屋建て事業所として開始しています。ご家族交流や地域行事の参加等、地域の方々との交流を大切にしています。また、炊事・洗濯・掃除・外回り等、職員と一緒に日々の生活の中での楽しみとして取り組んでいます。

このように通所系、訪問系、相談支援系、居住系と地域公益の6つの課で構成し、高齢者が住み慣れた地域で、尊厳のある自立した日常生活を継続できるよう、地域住民に最も身近な存在として、「道路は施設の廊下」と捉え24時間365日の在宅生活支援の取り組みを行っています。



2017年12月 第6回 地域共同徘徊模擬訓練



ベテルハウスの様子

共生サービス事業部

当部は、障がいのある人へのサービスを提供するため、2013年4月に障がいサービス事業部（2課体制）として発足し、2016年4月には部名を共生サービス事業部に改称し今日に至っています。以下、『いずみの園』の実施している障がい福祉サービスについて、機能別に紹介します。



共生サービス事業部 次長 豊田 毅士 (かきざサポートセンター長兼務)
就労支援事業課 課長 栗原 洋一
相談支援課 課長 角 令子
共生サービス事業部 部長 有馬 健 (法人本部事務局長・経営企画室長兼務)

1. 相談事業

(1) 障がい者生活支援センター「エマオ」

開所日：2002年10月1日（中津市委託事業）

＊2012年4月1日（障害者自立支援法に基づき特定相談事業所指定）

ア. サービス内容及び運営方針

i 計画支援 ii 就労支援 iii 地域生活支援

①小さな悩みにも気軽に対応できる事業所を目指します。

②相談支援の質の向上と支援者間の連携の強化を目指します。

③地域で安心して生活ができるための共生社会の実現に向けての取組を行います。

イ. 特長

障がいのある当事者やご家族への中津市の委託相談支援事業所として開設し、計画相談及びサービス等利用計画書の作成が加わりました。

(2) 「中津市障がい者等基幹相談支援センター」

(略称：市基幹支援センター)

開所日：2017年4月1日

ア. サービス内容及び運営方針

i サービス利用援助 ii 訪問相談
iii 関係機関との連携 iv 情報提供

①小さな悩みでも気軽に相談できるセンターを目指します。

②地域の相談支援の拠点として連携を図ります。

③共生社会の実現に向けて虐待防止・差別解消へ取り組みます。

イ. 特長

「市基幹支援センター」は、中津市の委託を受けて大分県で第1号の基幹相談支援センターとして、当事者・家族や関係機関からの相談に対応をしながら、相談支援専門員への支援や困難ケースの対応、障害者差別解消法の普及啓発並びに障がい者虐待防止センターとして、24時間365日の相談連絡体制を行っています。

2. 働く場の確保

(1) 多機能型就労継続支援A型・B型

「ワークセンターシャローム」

開所日：2013年4月1日 定員各10名

ア. サービス内容及び運営方針

i A型：メンテナンス事業、名刺作成

ii B型：クリーニング作業、農作業、軽作業

①自立意欲や自主性を大切にします。

②お互いの違いを認め、個性を伸ばします。

③夢や向上心に応えられる仕事をつくります。

イ. 特長・利用者の声

「ワークセンターシャローム」は、清掃・洗濯に関する業務を障がいのある人の働く場としてスタートしました。

また、農作業は、農業経験者の職員から、道具の使い方を習いながら、少しずつ、季節の野菜をつくり、採れたての野菜の販売が定着してきました。加えて6反（6,073㎡）の米づくりも行っています。



作業を丁寧に実施することを心がけ、利用される方の特性を優先して実施しています。



就労継続支援B型の作業風景

【利用者の声（就労して良かったこと）】

- ①お金を稼げるようになって、できることが増えた。
- ②温かい目で見守ってくれること、自分自身を認めてくれることがうれしい。

シャロームA型

石井 祐樹 尾本 佑文 自在丸亜希子
城戸崎 誠 東明 政幸 中谷 実
竹尾 和子 東 知美 安枝 知咲
牛島 将也

3. 生活介護事業

多機能型生活介護「いずみの丘エステル」

開所日：2016年8月1日 定員6名（特例）

ア. サービス内容及び運営方針

i 食事、排泄等の必要な支援

ii 軽作業、創作活動、レクリエーションの日中活動

- ①“その人らしさ”を尊重したサービスを提供します。
- ②利用者への“優しい視線”を大切にします。
- ③“地域で暮らす”を支援します。

イ. 特長・利用者の声

自然豊かな環境でゆっくりした時間の流れの中、一人ひとりに合ったプログラムに取り組んでいます。



エステルの花見

す。外出行事にも取り組み、日々の支援の中では環境を整えながらも、敢えて“環境を整え過ぎない”こと、“地域で暮らす”ためには個々の適応力を伸ばしていくことも大切にしています。

利用者にとって「自分らしく笑顔で落ち着いて過ごせる場所」となれるよう取り組んでいます。

【利用者・家族の声（利用して良かったこと）】

- ①本人がリラックスしていることがよく分かる。
- ②職員の方が、あたたかい目で、見てくれている。いいことも悪いことも、受け入れてくれている。

4. 障がいのある人の居場所づくり

中津市地域活動支援センターI型「リアン」

開所日：2017年5月22日

ア. サービス内容及び運営方針

i 社会適応訓練・茶話会・料理等の各種催事

ii 心理リハビリテーション

- ①笑顔があふれる交流の場づくりを目指します。
- ②自発・自立を大切にします。
- ③地域で共に生きることを支援します。

イ. 特長・利用者の声



リアンの食事会

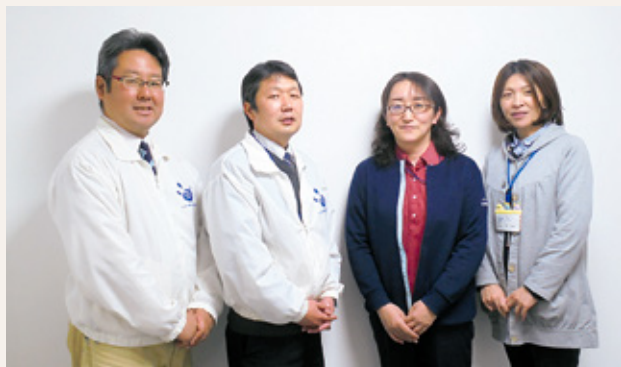
中津市地域活動支援センターI型「リアン」は、2017年5月中津市の委託を受け、障がい等のある方の居場所作り、余暇活動の幅が広がるよう、利用者の意見を聞きながら、活動を行っています。

【ご利用者からの声】

- ①普段できない作物の収穫体験ができて良かった。
- ②クッキングで野菜の皮をむいたり、切ったりする体験ができてよかった。

かきぜサポートセンター

当部は、2003年のデイサービスセンターかきぜの開所に始まり、新規事業を開設してゆき、2015年に共生型事業「福祉の里センター サマリア館」を開所し、現在は4課体制で事業を行っています。高齢者、障がいのある児・者、子ども、子育て中の親、地域住民など、多くの方が集い、関わりを持つことができ、蛸瀬地区の福祉サービスの拠点となるよう取り組んでいます。以下、機能ごとに事業をご紹介します。



寄り合いセンター 課長 友清 賢 かきぜサポートセンター センター長 豊田 毅士 訪問看護課 課長 有隅たまき 児童サービス課 課長 今永 弘枝

1. 共生型事業

(1) 子ども健全育成・子育て支援

ア. 児童クラブ「ピーター」・児童クラブ「ポール」

①特長及び利用者の声

放課後及び長期休暇の安心・安全な居場所づくりと、高齢者や障がい児（者）の方との交流会など、いろいろな遊びや体験を通し、子どもたちの成長を支援しています。

保護者の方からは、「学校や家庭では得られない体験ができ、とてもありがたい存在」「核家族の多い時代に、様々な年代の方とのふれあいは、貴重な多世代交流の体験の機会」と言われています。

イ. 中津市地域子育て支援センターポール

①特長及び利用者の声

子育て親子の支援として、気軽に交流できる場所の提供、発達や子育てに関する知識を学ぶため



ベビーマッサージの風景

の講座の開催、子育て関連の情報提供などを行っています。また妊娠、出産、育児と切れ間なく支援ができるよう、マタニティヨガなど行っています。

利用した保護者の方から、「転勤で中津に来ました。知り合いもなく育児の相談もできず不安だったが、利用することにより友人ができ、悩みを話せるようになり気持ちが楽になった」「相談会で先生に話を聞いてもらい安心しました」などの声が聞かれます。

(2) 障がいをもつ児童への支援

ア. 児童発達支援・放課後等デイサービスマルコ

①特長及び利用者の声

障がいや発達の気になるお子さんの支援を行っています。未就学児から就学児に対して、年齢に合わせ、就学に向けた支援、コミュニケーションや社会交流など就労や地域社会での自立に向けての支援を行っています。収穫した野菜を使用したクッキングなど、子ども達が楽しみながら生活能力を習得できるように心がけています。

保護者の方からは、「こんなにできるとは知らなかった」「できることが増えた」など子どもの成長に関する声が聞かれる一方で、将来に向けた不安や習慣などの相談もあります。保護者の方と一緒に考え、関係機関へ相談しながら子どもたちの支援を行っています。



(3) 高齢者等のデイサービス

ア. デイサービスセンターかきぜ

(特長及び利用者の声)

2003年に旧グレース保育園の新築移転に伴い、改修作業の後事業を開始し、2015年から「福祉の里センター サマリア館」にて事業を実施しています。運動機器を多く導入し、在宅での生活が継続できるようにサービス提供に努めています。また、重度な方の対応も可能な設備となっており、ニーズに応じた柔軟な対応が可能です。「デイサービスに来るのが楽しみ」と利用を心待ちにされている方も多く、子どもたちが近くにいる環境で、笑顔と元気な声があふれています。

イ. 障がい者デイサービス (基準該当生活介護)

介護保険通所介護での基準を満たした基準該当生活介護を実施し、障がい者の自立と社会参加を目的としています。

(4) 地域交流事業

ア. あじさいクラブ (週一体操教室)

(特長)

毎週、木曜日に地域の方が「サマリア館」に來られ、「あじさいクラブ」として体操を行っています。これは、中津市が現在進めている「週一体操教室」を継続して地域の方が運営、皆様で集まって自主的に運営しています。タオル体操や音楽療法等楽しみながら体操を行い、健康寿命増進のため取り組まれています。



あじさいクラブ

2. 訪問看護事業

ア. いずみの園訪問看護ステーション

(特長及び利用者の声)

介護保険と医療保険の訪問が可能であり、看護師、理学・作業療法士と連携して在宅で生活をされている医療の必要な方に訪問を行っています。がん患者の方への支援や難病患者へのリハビリ訪問など、入院するのではなく、住み慣れた自宅での生活の継続を支援しています。利用者のご家族からは、「最期を自宅で看取れて、不安もなく対応できた」との言葉を頂いています。

3. 介護保険 (地域密着型) 事業

ア. 寄り合いセンターいずみ (小規模多機能型居宅介護事業)



寄り合いセンターいずみ

(特長)

訪問・通い・宿泊を組み合わせ、地域包括ケアの中核的サービスとして、24時間365日の生活を支え、住み慣れた自宅での生活を継続できるよう支援しています。

イ. かきぜグループホーム (認知症への支援)

(特長)

残された能力を活かし、生き生きとした日常生活を送ることが出来るよう共同生活の場を提供し、寄り合いセンターいずみが併設することで、在宅生活が困難になった際、スムーズな住み替えに繋げることが出来ます。

法人本部事務局（総務部・経営企画室）

法人本部事務局は2012年1月に設置され「いずみの園」と保育園3か所の事務局機能を果たすこととされており、経営企画室、総務部、人材育成・研修センターで構成され業務に当たっています。

1. 法人本部機能

- ①評議員会・理事会の事務局
- ②いずみの園と3保育園との業務の一体的連携
- ③法人全体の事業調整

2. 人事・労務・福祉厚生・経理・栄養管理・庶務・設備維持管理＜総務部所管＞

①人事・労務・福利厚生

採用活動、勤怠管理、福利厚生・各種保険の手続きのサポートを行うと共に、職員が安心して長く働ける快適な職場環境の維持向上を図りつつ、“働きがい”の創出、福利厚生の充実を図っています。事業所内保育施設「マリアガーデン」はその一環で開設され、職員の子どもたちが元気に過ごし、最年少のボランティアとして行事の際は園内で活躍しています。

②経理

財務諸表、予算書、決算書の作成、利用料請求事務、各種申請等の業務を行い、決算書とともに資金調達、資金運用・管理を行っています。

③栄養管理

“安全で美味しい食事の提供”を目標に、日々ご利用者の体調に合わせた食事を、行事食を交えながら提供しています。特別養護老人ホームやデイサービス等、また各種行事に関わる食事提供の全てに対応しています。

④庶務・設備維持管理

各部署からの依頼に対応し、施設、設備の維持、管理及び園内の常日頃からの環境整備に努めています。



法人本部 事務局長 有馬 健 (経営企画室長兼務) 総務部 総務課長 末延 政光 総務部 経理課長 小松 証子 総務部 部長 堂本 高雄

3. 経営企画・計画策定＜経営企画室所管＞

i 『いずみの園新5か年プラン』

(2012年4月～2017年3月)

2012年4月、国の第5期介護保険事業計画のスタートに合わせ、理事長から「いずみの園」としての公益性、公共性、先駆性を堅持しつつ、これからの10年を展望した『新5か年プラン』が提示・策定され、その実施状況の進捗状況の把握に努めました。

ii 障がい事業総合化計画

(2012年4月～2021年3月)

障がいのある方へのサービス提供として、2020年度までに従来から実施していた障がい者相談事業、訪問事業に加え、働く場の提供・障がい児事業・日中生活介護事業・住まいの確保につき、地域において自立した生活を営むことを支援する障がい児・者向けの総合化計画に基づき、その実行を進めています。

iii 施設整備5か年整備計画

(2018年4月～2023年3月)

総務部とプロジェクト・チームを組み、特別養護老人ホームが開所して40年を迎える2018年度以降、中期的な建て替え計画を策定し、その準備を整えています。

4. 新規事業企画＜経営企画室所管＞

i 障がい事業～設置後、共生サービス事業部所管～

【2012年4月時点の実施事業】

障がい者デイサービスかきぜ、日中一時支援事業マルコ、障害者生活支援センターエマオ、居宅介護事業（重度障害者ホームヘルパー派遣）

【2013年4月以降の事業化】

知的障がいなどをもつ支援学校卒業生等のニーズに応える。

（註）2013年3月県立支援学校の中津市への移転完了（小・中・高等部）

ア. 中津市委託事業

① 障がい者生活支援センター『エマオ』
（2002年開所）
（特定・障がい児相談事業所/2012年4月指定）

② 『障がい者等基幹相談支援センター』
（2017年4月開所）

③ 『地域活動支援センター（Ⅰ型）リアン』
（2017年5月開所）

イ. 就労継続支援事業A型・B型『シャローム』
（2013年4月開所）

ウ. 生活介護『いずみの丘エステル』
（2016年8月開所）

ii 職員のための保育施設～設置後、総務部所管～

○事業所内保育施設『マリアガーデン』
（2012年4月開所）

iii 新しいデイサービスセンター

～設置後、在宅サービス事業部所管～

男性の利用に重点を置き、自由なメニュー選択、リハビリ中心型、アフター5の市民利用可能なデイサービス事業の創設

○『いずみの園中央サポートセンター』
（2012年6月開所）

iv 共生サービス型事業

～設置後、かきぜサポートセンター所管～

“共生サービス型（子ども・障がい児者・高齢者・地域住民）”事業を目指し、行政（大分県、中津市）との2年間の調整・支援を経て「サマリア館」が完成。

○福祉の里センター『サマリア館』

（2015年4月開所）

【移転】「デイサービスセンターかきぜ」、「いずみの園訪問介護ステーション」

【新設】「中津市地域子育て支援センターポール」、「児童クラブポール」、「児童発達支援・放課後等デイサービス事業所マルコ」、地域伝承スペース、喫茶コーナー、厨房、フリースペース

5. 研修企画＜経営企画室、総務部、人材育成・研修センター共管＞

2014年以降、介護施設等の人材不足が喫緊の課題となり、人材確保・育成・定着のための取組が求められ、法人内の職員の資質向上・人材確保等のための諸活動等について、各部の協力体制のもと、園全体が関わり、その実現に力を注いでいます。

ア. 法人内職員研修会（第1回2011年/以降毎年1回開催）

* 3保育園＋1（マリアガーデン）園長連絡会および事務職員情報交換会も開催

イ. 中間管理職講座〔課長篇・主任篇〕
（2013年4月開講～現在）

ウ. 人材確保等についての活動

人材に関し3班を組織化〔人材第1班/人材確保行動、人材第2班/人材育成計画策定、人材第3班/職員待遇改善環境等検討〕
（2014年12月～2018年3月）

エ. ボランティア団体『2毛作会』の組織化
（2015年11月～12名参加）

* 事務は人材育成・研修センターにおいて実施。

オ. 次世代職員育成講座
（2017年6月開講～現在）

6. 広報＜経営企画室所管＞

i 『法人魅力発信書』の発刊（2014年4月初版）

ii 『職員園内見学ツアー』の実施〔新規・中途採用職員向け〕
（2013年11月開始）

iii 『いずみの園ぐるっと見学会』の開催〔市民向け〕
（2016年11月開始）

ケアハウス事業部

1995年（H7）に福岡の津屋崎の地から中津の地へ「キリストにある信仰生活を全うする処を備えるために」の意思を受け継ぎ、50床のケアマンション聖愛ホームとして生まれ変わりました。いずみの園は総合施設であり、すぐ隣のヘルパーステーションや包括支援センターにケアマネジャーの部署が併設されているので、ご入居者のニーズにあったサポートがスムーズに行えます。

また、同じ事業部にシニアレジデンスいずみの森があります。ここは、自分の理想とするシニアライフを過ごしたい方が、他人の目を気にすることなく過ごすことのできる一戸建ての有料老人ホームで、全8棟が2006年（H18）に開設されました。両施設ともご自分の生活をエンジョイしながら過ごし、介護が必要になったら介護サービスを利用し、さらに重度化が進行すれば最後に母なるいずみの園が包ん



生活相談員
尾崎 正史

ホーム長
森 光徳

課長
橋田 要介

でくれます。「生涯安心」できる福祉のオアシスになれるよう地域の皆さまと共に発展成長していきたいと思っています。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

マタイ11章28節

いずみの園人材育成・研修センター

いずみの園人材育成・研修センターは、1992年7月、県の委託事業として「大分県介護実習・普及センター」として事業を開始、大分県民を対象とした「福祉・介護」の普及に努め、介護教室や福祉映画会の開催を行ってきました。また、介護保険制度の導入に伴い、各事業所に所属するヘルパー育成のための「ヘルパー2級養成講座」の委託事業を展開、介護保険導入後は一般の介護人材育成のため、「いずみの園ヘルパー2級養成講座」を開講し、約2,000人の修了生を輩出致しました。2013年3月をもって「ヘルパー2級養成講座」は終了、新たに国の制度により「介護職員初任者研修」と名称が変わり、県の認可を受け、介護人材の育成を継続しています。2014年10月から順次、人材育成・キャリアアップのため介護職員のための「喀痰吸引等研修」、看護師のための「医療的ケア教員講習会」、介護員の介護福祉士受験のための「実務者研修」事業所としての認可を受け、幅広い研



センター長
岩崎 深雪

修事業を展開しています。

福祉・介護の知識技術が普及し、2015年3月で普及活動としての委託事業は終了、役目を終えましたが、今後も地域人材育成、健康寿命の延伸などの普及活動は終わることはありません。常に地域の方や福祉人材の育成のための事業展開を継続していきたいと思っています。

IZUMI NO SONO SOCIAL WELFARE COMMUNITY
40th ANNIVERSARY

2018年度事業計画とこれから



いずみの園ワークセンターシャロームご利用者の作品

IZUMINO
SONO

40+

ANNIVERSARY

2018年度 法人本部事業計画

基本方針『社会福祉法人制度改革と当法人の今後

—新時代の社会福祉法人を目指して—

昨今、少子高齢社会が進展し人口減少、経済縮小の時代に入つてと言われています。社会保障費は110兆円を超え、2000年にスタートした介護保険制度も現状のままでは財政的に制度の維持が難しく、社会保障と税の一体改革はさらに進められるでしょう。これからは福祉サービスの基本的見直し、供給体制の効率化、重点化が求められそうです。

さらに2017年4月には社会福祉法が改正され、社会福祉法人制度の抜本的改革が実施されました。経営組織のガバナンスの強化、経営の透明性の確保、社会貢献の責務化等が挙げられました。これまでの社会福祉法人の信頼性や性善説的なものは見直され一般企業並みの厳しい経営姿勢が問われています。社会保障改革国民会議では「社会福祉法人こそ経営の近代化、合理化が必要」と指摘されました。

介護保険施行によりそれまでの税金丸抱えの措置制度から利用者がサービスを選択する契約制度に変わりました。また規制緩和により一般企業の参入が始まりました。当時のある経営協の幹部は将来を危惧し「社会福祉法人の役割は終わったかも知れない」と述懐、経営協の社会福祉法人経営研究会は「社会福祉法人経営の現状と課題」(2006.9.1)の中で「多角的経営、規模の拡大、合併、事業の譲渡、質の低い法人・経営者の退出」など今後の課題を挙げていました。

いずみの園は1997～1999年、2000年の介護保険施行を前に「施設改革3カ年戦略」をたて①職員の意識改革②多機能化③地域密着④サービスの質の確保⑤経営体質を目標として業務の改革に取り組みました。また介護保険制度が一段落した2012年には「いずみの園新5か年プラン」を策定、障がい者事業を開発し中津総合ケアセンターいずみの園を発足させ福祉の総合化を図りました。地域包括ケアシステムの推進、24時間在宅サービスの整備、共生型のかきざサポートセンターを完成させました。

今日の少子高齢化社会の進行の中で子ども子育てが新たな国家的課題となってきました。当法人は社会保障制度の改革の中で、いち早く児童・障がい・高齢者福祉の総合化を図り地域福祉の拠点化を目指してきました。これから事業団はその中心となって社会の要請に応じていきます。行政をはじめ地域関連団体との連携を強化し、誰もが住みたくするような、安全・安心な福祉のまちづくりを当法人の課題とします。

2018年度 いずみの園事業計画

1. 基本方針

『一創立40周年、地域に感謝一

いずみの園の職員としての誇りと責任をもって福祉のまちづくりへ挑戦』

2. 重点課題

①福祉のまちづくり構想（委員会設置）

- ・中津総合ケアセンターいずみの園構想（高齢者、障がい、児童）の推進
- ・子ども子育て一児童福祉の推進、母子、子ども食堂
- ・在宅高齢者事業研究班 空き家対策一事業化の研究、移住支援
- ・地域公益課一救貧、生活困窮者、引きこもり、就労支援
- ・関係団体との連携強化一行政、学校、医師会、福祉関係、経済関係
- ・今津（駅）サポートセンターの積極的展開
- ・市民ボランティア養成講座「町づくり、人づくり」

②地域包括ケアシステムの推進「住み慣れた地域で最後まで」

- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護（24時間サービス）の強化、全国5位以内へ
- ・小規模多機能型居宅介護事業（寄り合いセンター）の推進、サテライト化
- ・認知症対策一オレンジDr.との連携、認知症カフェ、徘徊模擬訓練
- ・介護予防、元気老人、ボランティア育成、2毛作会

③共生サービス事業の強化

- ・障がい者グループホームの建築（事業開始2019年4月）
- ・就労継続支援事業の推進
- ・サマリア館事業の推進
- ・中津市障がい者等基幹相談支援センター事業の推進

④人材確保、人材育成対策

- ・人材確保策の推進
- ・「やりがいのある仕事、福祉・介護」
小中高生介護教室・体験学習教室
- ・高卒職員育成プログラム、エルダー制の充実
- ・韓国、ベトナム出身者の積極採用
- ・WLB（ワークライフバランス）の推進

⑤国際交流、グローバル視点の推進

- ・韓国、ソウル（スンシルサイバー大学、韓端大学）、晋州（国際大学、社会福祉法人道山）、ベトナムとの交流を深め、長期的にアジアの高齢化対策に協力する
- ・欧米、東アジアの大学、社会福祉法人との人材交流を行い、職員のグローバル意識の育成、相互の介護技術の向上を図る

地域包括ケアシステム ～未来に向かって～

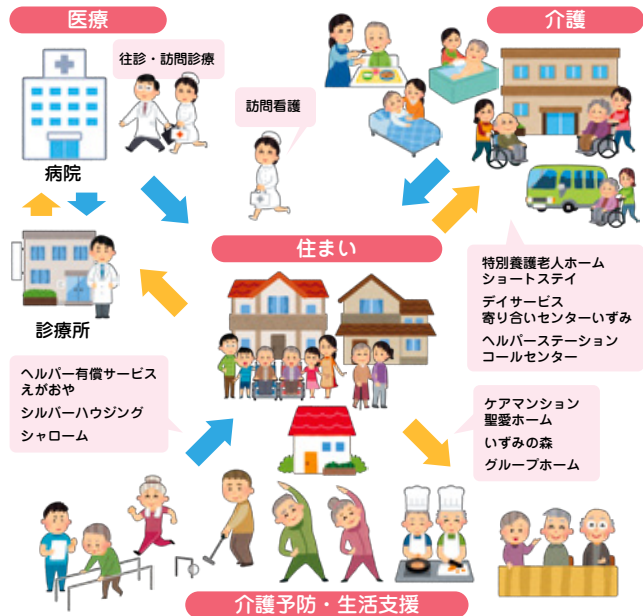
在宅サービス事業部 次長 伊藤 保 幸

1. これまでの地域包括ケアシステムの取り組み

国の進める地域包括ケアシステムにシンクロする形で、いずみの園ではこれまで「いずみの園地域包括ケアシステム構想」として『住み慣れた地域で最期まで自由に暮らしていただく』『良質な特養ケアの地域展開、24時間365日在宅生活支援』に力を入れて取り組んできました。

- ① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- ② 地域サポートセンター
- ③ 認知症対策、医療との連携
- ④ 「高齢者、子ども、障がい者、生活困窮」対策
- ⑤ 地域との連携

地域包括ケアシステムの取り組み



2. 未来に向かって

団塊の世代が後期高齢者になる2025年には単身者や認知症の方が増加し、社会資源の不足（人材不足も含め）が予測される中、世代間における意識の変革や少子化、人口減少、消滅可能性都市の出現が顕在化してきます。これは地域によって大きな差が生じますが、中津市も全国平均より速いスピードで進んでいます。

要介護3より重度ではないと特養に入居できないということは、「一人暮らしで、認知症があり、要介護2の人が地域で安心して暮らせるまち」（日本福祉大学原田教授講義資料より引用）にしていかなければなりません。

これは認知症や要介護2という事だけではなく、障がいや生活困窮などにも当てはまり、重層化し、複雑な課題のある世帯、そして地域の様々な課題を解決していくためには、多世代対応・多機能な福祉拠点を強化し、効果的・効率的なサービス提供のための生産性の向上を図っていく必要があります。

そのために、①他分野との連携基盤整備で商工会議所や農業等の地域の産業や文化との連携②介護、医療だけではなく、多職種との連携③地域の中での支えあいができる関係づくりが重要になります。私たちいずみの園では未来に向かって地域包括ケアシステムのために以下の事に取り組んでいきたいと思っています。

- 1) 医療では小児から高齢者、障がい者及びその家族に至るまで医療機関と連携した訪問看護サービスの提供。介護が必要か否かにかかわらず、状態の悪化防止、現状維持、改善に向けたリハビリの提供。
- 2) 介護では40年間培ってきた介護の理念と技術を未来へ引き継ぎ、更にその向上を図る。認知症の方へ寄り添う介護の提供。
- 3) 予防では地域住民を主体とした健康寿命の伸長のための運動教室の継続的拡大とリハ職の地域における活躍とその支援。
- 4) 生活支援では制度外のサービスとの連携。商工会議所、農業などとの連携。ICTの活用。
- 5) 住まいではいくつになっても安心して生活できるシェアハウス等の住まいの場の提供・形成。
- 6) 仕事（就労）では障がいがあっても自己実現を目指して働く意欲に寄り添って支援。生活困窮状態からの脱却のための支援の一つとして仕事の創造。
- 7) 相談援助（コーディネーション）

1)～6)の項目を組み合わせることで個人、家族、地域の相談窓口として地域包括支援センター、介護保険サービスセンター（永添・今津）、基幹型相談支援センター、エマオ、児童の相談窓口が統合的に対応。

「在宅高齢者支援事業研究班」の中間まとめ

在宅サービス事業部 部長 谷 口 弘 美

1. 目的

介護保険の制度改革において事業の見直し（対象者の制約等）で在宅高齢者への介護保険サービスは制約の方向にある。ついては、中津市における高齢者、とりわけ一人暮らし・高齢者世帯の住まい対策や食事提供、買い物等日々の生活において介護保険の適用外サービスについて、中津市民の実情に即した当園としてのサービス提供について種々研究を行い、これらの課題に対する一定の方向性を考察するものである。

2. 研究課題（テーマ）

①市内の空き屋等を活用した高齢者共同生活支援方策

一人暮らし、高齢者世帯の急増が顕在化するにつけ、健康寿命や予防介護（市施策重点化）の普及を見込み特養、GHの需要以外の住まい、高齢者支援体制介護をどうするかが課題

②介護保険外サービスの提供の具体策

介護保険では、提供できない生活支援（移動手段、食事、買い物等）をどのようにして提供できるか、新しい視点でその需要、提供手段、費用問題、人員確保等について市民の視点に立って検討

3. 視察・研修

- ・ 2017年7月25日 社会福祉法人偕生会（豊後大野市） くすのきハウス
「低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業」
- ・ 2017年12月7日 2017年度老人保健健康増進等事業
低所得者高齢者等住まい・生活支援の取組に関する普及啓発事業九州ブロック説明会

4. 今後の進め方及び検討事項

- ①空き家利用については、市民のニーズを把握し、市（建築、福祉部）と連携を図り、物件があれば対応できるよう2018年度も引き続き、研究を続けていきたい
 - i ニーズ把握 ii 有料老人ホームとしての位置づけ iii 運営上の課題 iv 改築費
 - v 収支シュミレーション vi その他
- ②保険外事業は、在宅サービス事業部で現事業の成果を検討し、その実施について判断する。

5. 最後に

2025年には団塊の世代（1947～49年生まれ）が人口の5%を占めると言われている。そして後期高齢者の割合は20%近くにも膨れ上がると言われている中で、中津市の高齢者が少しでも心配なく過ごせる地域の実現のために、これからも継続していく課題だと考えている。

「いずみの丘 グループホーム」事業について（2019年4月開始予定）

共生サービス事業部 就労支援事業課 課長 栗原 洋一

1. 概要

当法人の障がいサービス事業への取組として、これまでの事業展開で、中津市における障がいのある人への①相談体制づくり、②働きたいと考えている障がい者への支援、③障がい児への支援、④日中の生活の場を提供する事業、⑤居場所づくりなどの体制を順次整えてきました。

2018年1月時点で残る課題は、特別支援学校等を卒業した後、引き続き地域で暮らしていくために、また、親亡き後の支援として“住まいの場”が必要と考え、共同生活援助（グループホーム）事業の検討を行ってきました。

制度面でも障害者総合支援法が改正され、従来のケアホームがグループホームと一体化され、重度の障がいのある方への対応可能な体制を備えたサービスが位置付けられました。当法人も法改正の趣旨・中津市の意向も踏まえ、定員7名の介護サービス包括型＜介護スタッフ（生活支援員）を配置＞とし、また、短期入所として1室を整備し、緊急一時保護、レスパイトケア、地域生活に向けての準備のために用意したいと考えています。

さらに、今後は地域生活支援拠点としての機能を追加してゆくことで、“地域で生きる”を支援するグループホームを2019年4月に事業開始を目指します。



イメージパース

2. 施設の規模及び構造（基本設計段階）

- ①敷地面積：2,381㎡
- ②建物の面積：建築面積 289.7㎡、
延面積 286.4㎡
- ③建物の構造：木造



平面図

3. 10年後の共生社会の実現を目指して

当園が本格的に障がいサービス事業に取り組んだのは2013年4月ですが、それから約5年経過した今、『共生社会』という概念が人口に膾炙し、障害者差別解消法が施行されました。

内閣府が2017年に行った「障害者に関する世論調査」によると、障がいのある方への差別や偏見があると思うと答えた人が83.9%（「ある」50.8%、「ある程度ある」33.1%）になっています。また、同時期の内閣府の「人権擁護に関する世論調査」では、人権問題で関心のある分野として、51%が障がい者をあげ、20選択肢のトップで、5年前より12ポイント増えたと報じられています。

いずみの園が50周年を迎える2028年には、障がいがあってもなくても「共に生きる」社会の実現に寄与できているよう当園の事業の充実を図っていきたいと考えています。

いずみの園“CCRC”構想

経営企画室 主任 富 永 義 道

CCRCとは『「Continuing Care Retirement Community」の略。直訳すると「継続的なケア付きの高齢者たちの共同体」。仕事をリタイアした人が第二の人生を健康的に楽しむ街として米国から生まれた概念。元気なうちに地方に移住し、必要な時に医療と介護のケアを受けて住み続けることができる場所を指す。』（以上、2016.9.16朝日新聞朝刊紙面より引用）とあります。1960年代アメリカのサンシティを皮切りに、現在全米で1,300か所以上のCCRCがあります。



「いずみの園」ではこれまでに2回サンシティを視察して、私たちの地域にどうにかこの考え方を導入できないかと検討してきました。そして2006年に“全室戸建て”の有料老人ホーム「シニアレジデンスいずみの森」が完成しました。

「いずみの森」の入居者はまだ体が元気なうちに入居され、定年退職後の余暇を自由に過ごされます。そして加齢により介護が必要になっても、「いずみの園」の居宅系サービスやケアハウスに移り住むことで生活を継続し、最終的には特養に入所するなどして、最期の時までひとつの地域（コミュニティ）で暮らすことができる、そのようなシステムが「いずみの森」の完成により実現可能となりました。

2014年、内閣府特命担当地方創生大臣に石破茂氏が就任しました。そこで日本版CCRC、地方創生構想が打ち出されました。これは希望する高齢者が地方に移住し、地域住民や多世代の人々と交流し、健康でアクティブな生活をおくる生涯活躍のまちづくり構想です。

これから先の未来では、高齢化も進行し、それに伴い社会の仕組みや状況も大きく変化していくのではないかと予想され、今後、高齢者の需要も多様化する中でCCRCに対する期待は更に上昇していくのではないかと考えています。近い将来、例えばいずみの園「50周年」の時には、この“いずみの園CCRC構想”が今より一歩でも実現に近づいているように、まだ見ぬ未来に向かって進んでいきたいと考えています。



アメリカ西海岸アリゾナ州サンシティ

2016.10.27 第9回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会 〈最優秀賞・奨励賞〉

経口移行への取り組み ～あの笑顔をもう一度～

特養事業部 リハビリ課

作業療法士 南 采香

共同研究：東 久美DH、河野十萌CW、中尾光里RD、丸吉朋子RD

〈取り組んだ課題〉

今回、脳梗塞の再発により経口摂取中止となった方（以下A氏）の、中止から再開までの多職種協働での取り組みと成果、取り組みを通して感じた家族の気持ちの変化、成果から得られた課題について報告する。

【アセスメント期】（期間：H27.12.2～12.7）

- ・対象：A氏（90代、女性、要介護5）
- ・キーパーソン：弟
- ・嚥下機能評価：改訂水飲みテスト（12/7）
（以下MWST）
- ・嚥下機能評価結果：ムセあり
- Dr.指示：経鼻経管栄養
- ・家族のデマンド：「誤嚥のリスクは避けたい」

〈多職種協働での取り組み〉

- ・CW:アイスマッサージ、生活リズムの維持
- ・DH：口腔ケア
- ・結果：A氏のアドボケイト「口から食べたい」
- ・課題：経口摂取再開を判断する根拠が足りない。
栄養サポート委員会に相談し、経口移行への取り組み開始。

〈活動の成果と評価〉

【間接嚥下訓練期】（期間：H27.12.7～現在）

目的：摂食嚥下機能の向上

- ・訓練内容：間接嚥下訓練
- ・嚥下機能評価：第2回MWST（12/16）
- ・嚥下機能評価結果：ムセなし
- Dr.指示内容：水分トロミ付100cc提供可

【直接嚥下訓練期】（期間：H27.12.16～H28.6.20）

目的：摂食嚥下機能の向上、経口摂取量の増量

- ・訓練内容：直接嚥下訓練+間接嚥下訓練併用
- ・嚥下機能評価：第1回フードテスト（1/19）
（以下FT）
- ・嚥下機能評価結果：ムセなし、食思良好

○Dr.指示：1日100ccゼリー提供可

- ・嚥下機能評価：第2回FT（4/11）
- ・嚥下機能評価結果：ムセなし、食思良好

○Dr.指示：ゼリー食半量3食提供可

- ・嚥下機能評価：第3回FT（4/21）
- ・嚥下機能評価結果：ムセなし、全量摂取

○Dr.指示：朝夕ゼリー食半量、昼普通量提供可

◇Mチューブ抜管、3食ゼリー食再開（6/20）

【まとめ】

今回は、介護スタッフの気づき（アドボケイト）に応えられる仕組み作りを多職種協働により行うことができた。7か月のプロセスを要し、経口移行へと繋げることができたが、口から食べられるようになったことがゴールではない。今後、予想もされる誤嚥の予防に努めながら、少しでも長く経口摂取の維持が出来るように観察を継続し、早期対応でチームケアに取り組みたい。

〈今後の取り組み〉

前年度より、当園NSTに歯科医師を招き、新たな体制での取組が始動した。歯科医師指導の下、園全体の食の安全強化に努めていく。



2017.7.14 平成29年度九社連老人福祉施設協議会 〈優秀賞〉
職員研究大会

人が学び育つ職場環境を目指して ～来たれ！共に成長できる施設へ～

特養事業部 介護課

社会福祉士、介護福祉士 介護課 主任 原 田 あずさ

共同研究：人材確保関連具体化検討チーム

〈取り組んだ課題〉

2012年4月、国の第5期介護保険事業計画がスタートした。それを踏まえ、いずみの園ではこれからの10年を展望しつつ「いずみの園新5か年プラン」を策定した。

その中で「人材育成」「ワークライフバランス（以下WLB）」の視点が取り上げられた。

これからの事業の継続性を考慮し人材確保と人材育成（職員の定着）について、2014年12月より「人材確保関連具体化検討チーム」を発足し取り組みを行ってきた。

〈具体的な取り組み〉

- 「人材確保行動班」「人材育成計画策定班」「職員待遇環境等検討班」の3班に分けて活動を開始した。
- 1班「人材確保行動班」
 - ・メンバーに若手を起用し、新卒者に近い世代の声の反映に努めた。
 - ・当施設PR目的に、施設紹介DVDや職員募集案内用パンフレットを自分たちで作成。
 - ・九州、四国、中国地方の学校に、パンフレットや施設紹介DVDを送付した。
- 2班「人材育成計画策定班」
 - ・新人職員の早期離職防止と、効果的な育成を目指した活動。
 - ・「エルダー制度」を導入。新人職員とエルダーが双方成長することによる現場のレベルアップを目指した。
 - ・新たな育成チェックリストを作成し、新人の到達度、課題や目標を明らかにした。
 - ・当園のこれまでの歴史・文化に適し、わかりやすい「セルフチェック項目」や「到達度チェックリスト」の作成に努めた。
- 3班「職員待遇環境等検討班」
 - ・管理職全員（30名）から『求めている職場像（人材像、定着方策・労働条件等）』のアンケート（2015年7月実施）を取り、その具体化に努めた。

- ・「専門性」「特殊性」「困難性」を基準とし、手当関係の見直しを行った。
- ・働く場の環境整備の取り組みを検討した。
- ・資格が取り易い仕組みづくりを行った。
- ・WLB強化のための取り組みをすすめた。

〈活動の成果と評価〉

- 新卒応募者、採用者が増加した。
- 離職率の低下、職員定着につながった。
- 資格取得の貸付制度を新設。各種研修受講時の費用貸付による負担軽減を行い、資格取得希望者が増加した。
- 「ノー残業デー」「クラブ活動」「休暇の取得」をすすめた。
- 同窓会等（出身校交流会）への参加費用の一部負担を開始。
- 2016年度は15校の学校を訪問。直接情報交換したことで、募集活動だけでなく、先方との繋がりができた。
- チェックリスト作成により、個別の達成度や課題がみえやすくなった。

〈今後の課題〉

- 募集関連の動きについて、学校訪問だけでなく多様なパターンを検討していく。
- チェックリストを計画的に評価していけるような管理体制作りを行う。
- 福利厚生、WLBの取り組みは社会背景に沿って継続的な見直しが必要。
- 次世代職員育成講座（入職3年以上、35歳以下職員）を2017年度から実施している。



2017.10.26 第10回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会 〈優秀賞・奨励賞〉

現場に潜む危険に気づく力を高めたい！ ～ DVD作成から得られた意外な成果～

特養事業部 介護課

介護福祉士 介護課 主任 河野 十 萌

〈取り組んだ課題〉

2013年4月より、現場で起こる介護事故を予防する為、多職種（CW、NS、SW、OT、PT）で構成する、「リスク管理委員会」を設立。

4年間の活動経過として、イラストでのKYTや移乗介助法等の定期的な勉強会、情報共有システムの見直しなど、事故予防の為に試行錯誤しながら様々な活動を続けてきた。

しかし、目標水準を満たす程の十分な効果は得られておらず、効果的な事故予防方法の確立に、長期的な課題を残している状況である。

そこで、委員会で改めて現状の課題を抽出し、課題の細分化を行った結果、職員の「危険予知能力不足」が、一番の事故原因ではないか、という答えに辿り着いた。

今回の取り組みでは、危険予知能力の向上を目的に、過去4年間の活動を見直し、新たな手法はないか、独自性がある唯一無二なもので、皆の記憶に残る為にはどうすれば良いのかを、委員全体で再考した結果、「いずみの園KYTDVD（以下学習用DVD）」を作成するという結論に至った。

今回は、学習用DVD作成起案から、完成・展開までの経緯と成果、今後の課題について報告する。

〈具体的な取り組み〉

【「学習用DVD」の作成】（期間：H29.4～H29.7）

○目的：職員の「危険予知能力の向上」

○作成スタッフ構成・・・9名

（内訳：経験年数） 1～3年未満：2名
3～6年未満：2名
7～10年以上：4名
管理職（課長）：1名

○シナリオ作成

- ・毎月開催する委員会にて、過去の事故事例の統計を基に、DVDの内容を立案
- ・直近で頻発していた事故に近い場面設定
- ・実際の事故に関わった職員の精神的負担を考慮

・技術や知識だけでなく、職員や環境を踏まえた内容（気配り・目配り・心配り）

○役割分担：監督、演者、撮影、編集、調整係など

○撮影

・作成したシナリオを基に、よりリアルな現場に近づける様、実際の生活環境で撮影を行った。

・撮影中も議論しながら何度も撮り直しを行った。

【学習用DVDを用いた勉強会開催】（H29.7開催）

・特養職員対象（45名）

・多職種を交えた1グループ6、7名程度でのグループ討議を行った。

・映像内の‘どこに危険が潜んでいるのか’‘どうすればその危険を回避できるか’を各グループ内で検証し、その結果を発表。

〈活動の成果と評価〉

○想定内の成果

DVDを「見る側」の危険予知能力の向上

○想定外の成果

DVDを「作成する側」の危険予知能力の向上

〈今後の課題〉

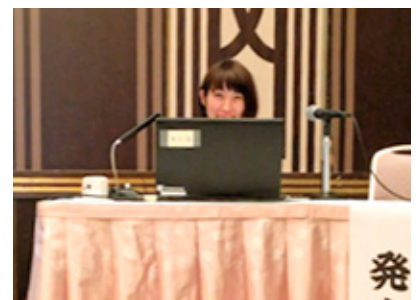
○介護事故ゼロ（活動目的）

・DVD作成の継続（シリーズ化）

・作成メンバーの入れ替え（毎回変更）

・「学習用DVD」を活用した勉強会回数増

・既存のエルダー制度、OJT評価項目への反映



その他 学術発表

(過去10年間に記載)

2009.1.29	第1回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	ステップアップレク委員会の取り組み ～レク参加後の効果と課題についてのアンケート調査～	栗原 洋一	奨励賞
2009.1.29	第1回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	記録の共有と振り返り ～24時間～1週間～1ヶ月の健康管理への ステップアップ～	河野 和樹	奨励賞
2009.1.29	第1回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	個別ケアと週3回入浴への取り組み ～「入浴が楽しみ」の声に応えたくて～	重成 智子	奨励賞
2010.2.5	第2回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	地域と共生するデイサービス ～交流型のデイサービスを目指して～	松井 学	奨励賞
2010.2.5	第2回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	笑顔がみたい！！QOLケアのリハビリから ～ISO・CP情報共有と内視鏡を用いた発展～	高倉 哲也	奨励賞
2012.2.3	第4回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	「さあ帰ろう！」に寄り添って ～小規模多機能だからできたこと～	橋田 要介	奨励賞
2012.2.3	第4回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	母は食べられますか？ ～医療・在宅事業所間の連携と効果～	山本 尚義	奨励賞
2012.11.20	第5回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	「支え愛作戦」 ～徘徊模擬訓練に向けて地域連携の取り組み～	角 令子	奨励賞
2013.11.25	第6回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	「自立支援、そして男性にも楽しめるデイサービスを」 ～新たなサービスを目指して～	須崎 敏治	奨励賞
2014.11.17	第7回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	「医療と介護の統合的生活支援を目指して」 ～認知症支援の切り口から～	伊藤 保幸	奨励賞
2014.11.17	第7回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	誤嚥性肺炎ゼロを目指して ～肺炎に対する私たちの挑戦～	東 久美	奨励賞
2015.10.10	第6回 オールジャパンケアコンテスト	排泄分野A部門	河野 英之	優秀賞
2015.11.30	第8回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	エンドノート ～あなたの命の物語～	重成 智子	優秀賞 奨励賞
2016.10.27	第9回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	経口移行への取り組み ～あの笑顔をもう一度～	南 采香	最優秀賞 奨励賞
2016.10.27	第9回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	退院して美味しいビールが飲みたい ～定期巡回サービスを利用してターミナル期 の在宅生活を支える～	中島 喬生	奨励賞
2017.7.14	平成29年度九社連老人福祉施設協議会職員研究大会(熊本県)	経口移行への取り組み ～あの笑顔をもう一度～	南 采香	奨励賞
2017.7.14	平成29年度九社連老人福祉施設協議会職員研究大会(熊本県)	人が学び育つ職場環境を目指して ～来たれ！共に成長できる施設へ～	原田 あずさ	優秀賞
2017.10.18	平成29年度全国老人福祉施設研究会議(高知会議)	人が学び育つ職場環境を目指して ～来たれ！共に成長できる施設へ～	原田 あずさ	発表認定
2017.10.26	第10回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	現場に潜む危険に気づく力を高めたい！ ～DVD作成から得られた意外な成果～	河野 十萌	優秀賞 奨励賞
2017.10.26	第10回 大分県高齢者福祉施設等実践研究大会	2025年に向けた地域包括支援センターの取り組み ～中津市孤立ゼロ訪問事業の実施を通して～	今吉 日向子	奨励賞

委員会活動

感染防止委員会 河 端 ハツエ

感染防止委員会は、施設内の感染予防及び感染対策の充実と強化を目的として活動を展開しています。各事業所の感染防止委員を中心として、感染防止対策の啓蒙と教育を行っています。また、地域の感染症発生動向にも注視し感染の侵入を防ぐように努力しています。ひとたび感染症が発生した場合は、利用者の命を守るため拡大防止に全力で取り組みます。

経費節減委員会 末 延 政 光

経費節減は企業（事業所）にとって重要なテーマです。経費節減委員会では、経費の削減に向け、エアコンの温度の管理、使用していない照明の消灯、コピーの裏紙使用、リサイクルトナーの使用など、職員に向けての啓発、意識付けの他、いずみの園全体での新電力への見直しや携帯電話経費削減を計画的に行っています。

研修委員会 岩 崎 深 雪

研修委員会では、職員に対し制度上求められる研修及び職員が関心を持つと思われるものをテーマとして「園内研修」を行い、職員の知識技術等の向上に努めています。

また、認知症予防や認知症への対応など「認知症ネットワーク研究会」などの研修の案内を行い、多くの事を学ぶことができるように考慮しながら取り組んでいます。

広報委員会 富 永 義 道

私たちが持つ役割は、その名の通り広報です。いずみの園のはたらきを地域の皆様に知っていただくことを目的としています。具体的な広報の方法としては、年3回の「いずみの園だより」発行です。発行する年や季節に応じたいずみの園の出来事やイベントを掲載しています。より楽しく、分かりやすく情報をお届けできるよう、みんなで工夫して頑張っています。

マナー向上委員会 橋 本 晃 一

マナー向上委員会では、マナー・礼儀作法を習得して頂けるようマナー講座を開講しています。人と関わり人間関係無しには成り立たない職業です。援助する者として、真心がこもった支援・態度を身につけて頂けるようスキルの向上を目指しています。いずみの園の職員として又、人としての質の向上に努めて取り組んでいます。

フェスタ委員会 谷 口 弘 美

創立20周年（1998年）を記念し、これまで支えてくださった、ご家族、地域、関係者、OBの方々に感謝の意を表す目的で始まりました。今では、地域の団体関係者等の出店やボランティアさん（約150名）に支えられ約3,000人の来場者をお迎えするフェスタとなりました。これからも感謝の意を込めて、誰もが楽しめるフェスタを開催していきたいと思ひます。

防災委員会 橋 田 要 介

防災委員会では、火災予防のための定期的な自主点検を中心に、他の職員への啓発や、大災害発生時に備えた準備や体制作りにも取り組んでいます。いずみの園は、発災時には福祉避難所としての機能も求められます。地域の防災拠点としての役割をしっかりと果たすべく、日々の備えに努めています。

編集後記

記念誌をご覧いただきありがとうございました。旧約聖書の出エジプト記はモーセがエジプトの奴隷となっていたイスラエルの民を神に与えられた“約束の地”カナンへ連れて行くお話で、海が割れるエピソードをいえば一度は聞いたことがあるかもしれません。この約束の地にたどりつくまでに要したのが40年といわれています。

私たちいずみの園は地域の皆様のお支えにより40年のあゆみをむかえることができました。そして、これからは高齢化が進む地域の中で、生涯を安心して過ごせる施設づくりを、多職種が協働して続けていくとともに、この40年間に先人たちが築いてきた歴史、地域の信頼をこれからも引き継いで、120歳で生涯を終えたモーセのように永く地域の中で、これからも地域と一緒に福祉の業を紡いでいきたいと考えています。

いずみの園40周年記念誌 編纂班

市川 朋克



富永 義道	友清 賢	工藤 一憲	橋本 由美	一松 美穂	角 令子	今永 弘枝	野見山 晃
芥川 弘美	川口千 佐枝	谷口 弘美	市川 朋克	伊藤 保幸	上坂 尚子		

中津総合ケアセンター いずみの園 創立40周年記念誌

2018年（平成30年）4月25日発行

-
- 発 行 社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンター いずみの園
本部 〒871-0162 大分県中津市永添2744
TEL0979-23-1616(代) FAX0979-23-1783
E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp
- 印 刷 (株)川原田印刷社 大分県中津市牛神9-1

